

審査意見への対応を記載した書類（6月）（本文）

審査意見への対応を記載した書類（6月）（本文）

（目次） 看護学研究科 看護学専攻（D）

【教育課程等】

1. 「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」の「資料1 博士後期課程ディプロマ・ポリシー・カリキュラム・ポリシー・授業科目・アドミッション・ポリシー関係図」において、本専攻に配置する全ての授業科目がDP1に対応していることが示されているが、例えば、授業科目「看護科学研究論」や、科目区分「専門科目」に配置されている各授業科目の「シラバス」を確認すると、DP1に掲げる「グローバルかつ学際的な視点」は見受けられないなど、全ての授業科目がDP1に対応しているとは見受けられず、ディプロマ・ポリシーと授業科目の対応関係が適切に整合しているのか疑義がある。このため、DP1に対応する授業科目について、当該科目の内容がDP1に整合しており、対応関係が適切であることについて具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）…………… 3 ページ
2. 「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」の「資料1 博士後期課程ディプロマ・ポリシー・カリキュラム・ポリシー・授業科目・アドミッション・ポリシー関係図」において、授業科目「看護科学研究論」、「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」及び「特別研究Ⅲ」がDP4に対応していることが示されているが、上記科目の「シラバス」を確認すると、DP4に掲げる「次代を牽引する看護専門職者を指導できる教育力」を修得するような授業内容になっているとは見受けられず、ディプロマ・ポリシーと授業科目の対応関係が適切に整合しているのか疑義がある。このため、DP4に対応する授業科目について、当該科目の内容がDP4に整合しており、対応関係が適切であることについて具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）…………… 15 ページ

【審査意見以外への対応事項】

1. 「看護システム開発学」シラバスの中でグループワークをするような内容を予定しているが、博士後期課程の定員が2名となり、本科目が選択科目という位置付けで履修しない者がいた場合、履修者が1名となった場合の対応について説明を追記する。（その他）…………… 24 ページ
2. 学位論文審査の合格が「特別研究Ⅲ」の単位修得の要件に入っていないことが明確になるよう説明を追記する。（その他）…………… 25 ページ
3. 学位論文審査の時期が1月～3月に限定されないことが明確になるよう記載場所を修正する。（その他）…………… 26 ページ
4. 博士後期課程の基礎となる修士課程の課程名の変更（その他）…………… 27 ページ
5. 誤記や不備に伴う修正（その他）…………… 45 ページ

(是正事項) 看護学研究科 看護学専攻 (D)

【教育課程等】

1. 「設置の趣旨等を記載した書類 (資料)」の「資料1 博士後期課程ディプロマ・ポリシー・カリキュラム・ポリシー・授業科目・アドミッション・ポリシー関係図」において、本専攻に配置する全ての授業科目がDP1に対応していることが示されているが、例えば、授業科目「看護科学研究論」や、科目区分「専門科目」に配置されている各授業科目の「シラバス」を確認すると、DP1に掲げる「グローバルかつ学際的な視点」は見受けられないなど、全ての授業科目がDP1に対応しているとは見受けられず、ディプロマ・ポリシーと授業科目の対応関係が適切に整合しているのか疑義がある。このため、DP1に対応する授業科目について、当該科目の内容がDP1に整合しており、対応関係が適切であることについて具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見を踏まえ、全科目の目的や具体において「グローバルかつ学際的な視点」の修得が明確になるよう、シラバスを再検討した。国内外の実践や研究の動向を探求でき、また、看護に留まらず広い学問分野の知見を学ぶ内容とした。それに伴い、基礎科目、専門科目の9科目のシラバスを加筆し、授業科目の概要及び「設置等の趣旨を記載した書類 (本文)」の対応する科目の説明も修正することとした。

◀ 審査意見への対応を記載した書類 (資料) ▶

- (資料1) 授業科目の概要
- (資料4) シラバス

(新旧対照表) 基本計画書 (審査意見 (資料) 資料1)

新	旧
(授業科目の概要 12 ページ) 「看護科学研究論」 (略) ■授業科目の概要 高度な研究能力を育成し、グローバルレベルで看護の理論や実践における新たな知見を獲得するための重要な科目で、以下の内容を含むものとする。 (略) 3) 学術論文執筆スキルの向上：学術的な論文執筆スキル向上のために、文献レビュー、論文構成、国際的・学際的な場における研究発表技術について習熟する。 (第15回)	(授業科目の概要 10 ページ) 「看護科学研究論」 (略) ■授業科目の概要 追記 (略) 3) 学術論文執筆スキルの向上：学術的な論文執筆スキル向上のために、文献レビュー、論文構成、研究発表技術について習熟する。 (第15回)

<p>(授業科目の概要 14 ページ) 「理論看護学」</p> <p>(概要) ■授業科目の目的 研究を行う基盤として、またグローバルかつ学際的な視点から看護学の発展に寄与できる能力を修得するために、既存の看護理論についての知識を踏まえ、理論の開発手法（概念分析含む）や研究及び臨床での理論の活用方法について発展的に学修する。</p> <p>■授業科目の概要 (略) 2 回： グローバルかつ学際的な視点から理論開発の動向を知り、理論の分析・評価を行う。 (略) 第 4 回： 概念分析：国内外の研究事例を参照し、自身の興味・関心のある現象・概念の選定・手法の決定について学修する。 (略)</p>	<p>(授業科目の概要 12 ページ) 「理論看護学」</p> <p>(概要) ■授業科目の目的 研究を行う基盤として、また看護学の発展に寄与できる能力を修得するために、既存の看護理論についての知識を踏まえ、理論の開発手法（概念分析含む）や研究及び臨床での理論の活用方法について発展的に学修する。</p> <p>■授業科目の概要 (略) 2 回： 理論開発、理論の分析・評価を行う。 (略) 第 4 回： 概念分析：自身の興味・関心のある現象・概念の選定・手法の決定について学修する。 (略)</p>
<p>(授業科目の概要 15 ページ) 「看護倫理学」</p> <p>■授業科目の目的 ①生命倫理学・看護倫理学をもとに看護学の研究者に必要な倫理的課題をグローバルかつ学際的な視点から探求する能力を修得する。 (略) 第 1 回：森・加藤 グローバルかつ学際的な視点から看護学の発展のための科学者としての倫理的視点を考察する。</p>	<p>(授業科目の概要 13 ページ) 「看護倫理学」</p> <p>■授業科目の目的 ①生命倫理学・看護倫理学をもとに看護学の研究者に必要な倫理的課題を探求する能力を修得する。 (略) 第 1 回：森・加藤 看護学の発展のための科学者としての倫理的視点を考察する。</p>

<p>(授業科目の概要 17 ページ) 「看護システム開発学」</p> <p>(略)</p> <p>■授業科目の概要 (略)</p> <p>Society 5.0 における看護システムの創造、 変革のありようについて、グローバルかつ 学際的な視点から検討する。 (略)</p>	<p>(授業科目の概要 15 ページ) 「看護システム開発学」</p> <p>(略)</p> <p>■授業科目の概要 (略)</p> <p>Society 5.0 における看護システムの創造、 変革のありようについて検討する。 (略)</p>
<p>(授業科目の概要 19 ページ) 「看護ケア実践開発科学特講」</p> <p>■授業科目の目的、 グローバルかつ学際的な視点から看護技 術と看護ケアのエビデンスの開発におけ る課題を探求し、理論 的、実践的に探究 する。 (略)</p> <p>第1回・2回：土田 グローバルな視点から看護の知の構造に おける歴史的変遷と理論的基盤について 学修する。</p> <p>第3回：土田 学際的研究の視点から看護の実践知と実 践知研究について学修する (略)</p> <p>第6回：土田 国内外の研究事例の紹介を通して看護ケ アの疫学的検証に関する課題について学 修する。</p> <p>第7回：土田 看護技術と看護ケアの開発における国内 外の課題、その背景や影響する要因分析に ついて学修する。 (略)</p> <p>第1回・2回：鈴木 グローバルな視点から看護の知の構造に おける歴史的変遷と理論的基盤について</p>	<p>(授業科目の概要 17 ページ) 「看護ケア実践開発科学特講」</p> <p>■授業科目の目的、 看護技術と看護ケアのエビデンスの開発に おける課題を探求し、理論 的、実践的に探 究する。 (略)</p> <p>第1回・2回：土田 看護の知の構造における歴史的変遷と理論 的基盤について学修する。</p> <p>第3回：土田 看護の実践知と実践知研究について学修す る (略)</p> <p>第6回：土田 看護ケアの疫学的検証に関する課題につい て学修する。</p> <p>第7回：土田 看護技術と看護ケアの開発における課題に ついて学修する。 (略)</p> <p>第1回・2回：鈴木 看護の知の構造における歴史的変遷と理論 的基盤について学修する。</p>

<p>学修する。</p> <p>第3回：鈴木 学際的研究の視点から看護の実践知と実践知研究について学修する。 (略)</p> <p>第5回：鈴木 国内外の研究事例の紹介を通して看護技術の生理学的検証に関する課題について学修する。</p> <p>第7回：鈴木 看護技術と看護ケアの開発における国内外の課題、その背景や影響する要因分析について学修する。</p> <p>第8回：鈴木 Implementation Science を紹介し、看護技術と看護ケアの臨床実践現場への実装を通して発信・変革・教育について学修する。</p>	<p>第3回：鈴木 看護の実践知と実践知研究について学修する。 (略)</p> <p>第5回：鈴木 看護技術の生理学的検証に関する課題について学修する。</p> <p>第7回：鈴木 看護技術と看護ケアの開発における課題について学修する。</p> <p>第8回：鈴木 看護技術と看護ケアの臨床実践現場への実装について学修する。</p>
<p>(授業科目の概要 20 ページ) 「看護教育学特講」</p> <p>■授業科目の目的 看護教育における研究課題と方法論をグローバル、かつ学際的な視点から検討・探求することで、エビデンスと実践を有機的に繋ぐための研究方法論の生成やモデル構築を目指す。</p>	<p>(授業科目の概要 18 ページ) 「看護教育学特講」</p> <p>■授業科目の目的 看護教育における研究課題と方法論をグローバルな視点から検討・探求することで、エビデンスと実践を有機的に繋ぐための研究方法論の生成やモデル構築を目指す。</p>
<p>(授業科目の概要 21 ページ) 「政策・管理看護学特講」</p> <p>■授業科目の目的 質の高い看護サービスの提供を可能とする組織とシステムのあり方について、個々の医療機関レベルから国内外の政策レベルに至る全体を俯瞰の上で検討した上で、変革を要する課題とその研究論を追究する (略)</p>	<p>(授業科目の概要 19 ページ) 「政策・管理看護学特講」</p> <p>■授業科目の目的 看護サービスを保証する組織とシステムのあり方を個別医療機関の経営管理から地方公共団体や国家レベルの政策課程に至る全体を俯瞰しながら検討し、具体的な変革プランの開発に資する研究を追究する (略)</p>

<p>(授業科目の概要 22 ページ) 「高度実践開発看護学特講」</p> <p>■授業科目の目的 (略)</p> <p>その上で、広く国内外の看護実践について吟味し、専門分野を含む学際的な視点に基づいた新たな看護実践の概念枠組み及びケアの質を向上し、広く実装するための教育力を高める。以上のような看護の適用に貢献できる研究テーマと研究方法を検討することで、新たな看護学の知見を臨床で実装し、広く共有するための教育力を養う。</p>	<p>(授業科目の概要 20 ページ) 「高度実践開発看護学特講」</p> <p>■授業科目の目的 (略)</p> <p>その上で、広く国内外の看護実践について吟味し、専門分野での新たな看護実践の概念枠組み及びケアの質の向上に貢献する研究テーマと研究方法を検討する。</p>
<p>(授業科目の概要 24 ページ) 「生活支援開発看護学特講」</p> <p>■授業科目の目的</p> <p>病院及び在宅で生活・療養するあらゆるライフステージにある人々の健康問題や健康課題を生活者としての視点を中心にグローバルかつ学際的に捉え、国内外の文献を系統的に検索して過不足なく収集し、適切にクリティークすることを通して、知識の創出や看護ケア開発の可能性について検討する。</p> <p>(略)</p> <p>第1・2回：神崎 学生の関心ある概念や健康課題について慢性看護学領域を中心とし学際的に幅広い文献収集を実施し、得られた文献を考察し学修を深める。</p> <p>第3・4回：堀口 学生の関心のある地域・在宅ケアにおける健康課題について、医療保健福祉制度、社会情勢、経済、文化・価値観など学際的な視点で国内外の文献を検討し、新たな看護ケアの開発と実装化に向けて検討する。</p>	<p>(授業科目の概要 22 ページ) 「生活支援開発看護学特講」</p> <p>■授業科目の目的</p> <p>病院及び在宅で生活・療養するあらゆるライフステージにある人々の健康問題や健康課題を生活者としての視点を中心に多角的、学際的に捉え、国内外の文献を系統的に検索して過不足なく収集し、適切にクリティークすることを通して、知識の創出や看護ケア開発の可能性について検討する。</p> <p>(略)</p> <p>第1・2回：神崎 学生の関心ある概念や健康課題について慢性看護学領域を中心とし多角的で幅広い文献収集を実施し、得られた文献を考察し学修を深める。</p> <p>第3・4回：堀口 学生の関心のある地域・在宅ケアにおける健康課題について、医療保健福祉制度、社会情勢、経済、文化・価値観など多角的な視点で国内外の文献を検討し、新たな看護ケアの開発と実装化に向けて検討する。</p>

<p>第5・6回：西村 学生の関心のあるリプロダクティブヘルスにおける課題について、ライフステージ、医療、教育、倫理、文化、歴史的側面など学際的な視点で幅広く国内外の文献を検討し、今後の研究の方向性や研究成果を臨床現場に実装化する方法について検討する。</p>	<p>第5・6回：西村 学生の関心のあるリプロダクティブヘルスにおける課題について、ライフステージ、医療、教育、倫理、文化、歴史的側面な多角的な視点で幅広く国内外の文献を検討し、今後の研究の方向性や研究成果を臨床現場に実装化する方法について検討する。</p>
--	---

(新旧対照表) シラバス (審査意見(資料)資料4)

新	旧
<p>(シラバス 2 ページ) 「看護科学研究論」</p> <p>[授業の概要] 高度な研究能力を育成し、グローバルレベルで看護の理論や実践における新たな知見を獲得するための重要な科目で、以下の内容を含むものとする。 (略) ③ 学術論文執筆スキルの向上：学術的な論文執筆スキル向上のために、文献レビュー、論文構成、国際的・学際的な場における研究発表技術について習熟する。</p>	<p>(シラバス 2 ページ) 「看護科学研究論」</p> <p>[授業の概要] 高度な研究能力を育成し、看護の理論や実践における新たな知見を獲得するための重要な科目で、以下の内容を含むものとする。 (略) ③ 学術論文執筆スキルの向上：学術的な論文執筆スキル向上のために、文献レビュー、論文構成、研究発表技術について習熟する。</p>
<p>(シラバス 4 ページ) 「理論看護学」</p> <p>[授業の目的] 研究を行う基盤として、またグローバルかつ学際的な視点から看護学の発展に寄与できる能力を修得するために、既存の看護理論についての知識を踏まえ、理論の開発手法(概念分析含む)や研究及び臨床での理論の活用方法について発展的に学修することを目的とする。</p> <p>[各回の授業内容] (略) 第2回： グローバルかつ学際的な視点から理論開</p>	<p>(シラバス 4 ページ) 「理論看護学」</p> <p>[授業の目的] 研究を行う基盤として、また看護学の発展に寄与できる能力を修得するために、既存の看護理論についての知識を踏まえ、理論の開発手法(概念分析含む)や研究及び臨床での理論の活用方法について発展的に学修することを目的とする。</p> <p>[各回の授業内容] (略) 第2回： 理論開発、理論の分析・評価を行う。</p>

<p>発の動向を知り、理論の分析・評価を行う。 (略)</p> <p>第4回 概念分析：国内外の研究事例を参照し、自身の興味・関心のある現象・概念の選定・手法の決定について学修する。 (略)</p>	<p>(略)</p> <p>第4回 概念分析：自身の興味・関心のある現象・概念の選定・手法の決定について学修する。 (略)</p>
<p>(シラバス 6 ページ) 「看護倫理学」</p> <p>[授業の目的] ①生命倫理学・看護倫理学をもとに看護学の研究者に必要な倫理的課題をグローバルかつ学際的な視点から探求する能力を修得する。 (略)</p> <p>[授業内容] 第1回：森・加藤 グローバルかつ学際的な視点から看護学の発展のための科学者としての倫理的課題を考察する (略)</p> <p>[到達目標] ①生命倫理学・看護倫理学をもとに看護学の研究者に必要な倫理的課題をグローバルかつ学際的な視点から探求できる。 (略)</p>	<p>(シラバス 6 ページ) 「看護倫理学」</p> <p>[授業の目的] ①生命倫理学・看護倫理学をもとに看護学の研究者に必要な倫理的課題を探究する能力を修得する。 (略)</p> <p>[授業内容] 第1回：森・加藤 看護学の発展のための科学者としての倫理的課題を考察する (略)</p> <p>[到達目標] ①生命倫理学・看護倫理学をもとに看護学の研究者に必要な倫理的課題を探究できる。 (略)</p>
<p>(シラバス 8 ページ) 「看護システム開発学」</p> <p>[授業の概要] (略) また、効果的及び効率的に看護システムを変革していくために、修士課程（博士前期課程）での看護管理論や看護政策論、倫理学の知識を踏まえ、Society 5.0における看護システムの創造、変革のありようについて、グローバルかつ学際的な視点から検</p>	<p>(シラバス 8 ページ) 「看護システム開発学」</p> <p>[授業の概要] (略) また、効果的及び効率的に看護システムを変革していくために、前期課程での看護管理論や看護政策論、倫理学の知識を踏まえ、Society 5.0における看護システムの創造、変革のありようについて検討する。</p>

<p>討する。</p>	
<p>(シラバス 10 ページ) 「看護ケア実践開発科学特講」</p> <p>[授業の目的] グローバルかつ学際的な視点から看護技術と看護ケアのエビデンスの開発における課題を探求し、理論的、実践的に探究する。</p> <p>[各回の授業内容] 第1回・2回：土田、鈴木 グローバルな視点から看護の知の構造における歴史の変遷と理論的基盤について学修する。</p> <p>第3回：土田、鈴木 学際的研究の視点から看護の実践知と実践知研究について学修する。 (略)</p> <p>第5回：鈴木 国内外の研究事例の紹介を通して看護技術の生理学的検証に関する課題について学修する。</p> <p>第6回：土田 国内外の研究事例の紹介を通して看護ケアの疫学的検証に関する課題について学修する。</p> <p>第7回：土田、鈴木 看護技術と看護ケアの開発における国内外の課題、その背景や影響する要因分析について学修する。 (略)</p> <p>[到達目標] ①看護学領域や周辺学問領域の諸理論に基づき、看護技術と看護ケアのエビデンスの開発における国内外の課題、その背景や</p>	<p>(シラバス 10 ページ) 「看護ケア実践開発科学特講」</p> <p>[授業の目的] 看護技術と看護ケアのエビデンスの開発における課題を探求し、理論的、実践的に探究する。</p> <p>[各回の授業内容] 第1回・2回：土田、鈴木 看護の知の構造における歴史の変遷と理論的基盤について学修する。</p> <p>第3回：土田、鈴木 看護の実践知と実践知研究について学修する。 (略)</p> <p>第5回：鈴木 看護技術の生理学的検証に関する課題について学修する。</p> <p>第6回：土田 看護ケアの疫学的検証に関する課題について学修する。</p> <p>第7回：土田、鈴木 看護技術と看護ケアの開発における課題について学修する。 (略)</p> <p>[到達目標] ①看護学領域や周辺学問領域の諸理論に基づき、看護技術と看護ケアのエビデンスの開発における課題の背景や影響する要</p>

<p>影響する要因について分析できる。 (略)</p>	<p>因について分析できる。 (略)</p>
<p>(シラバス 11 ページ) 「看護教育学特講」</p> <p>[授業の目的] 看護教育における研究課題と方法論をグローバル、かつ学際的な視点から検討・探求することで、エビデンスと実践を有機的に繋ぐための研究方法論の生成やモデル構築を目指す。</p>	<p>(シラバス 10 ページ) 「看護教育学特講」</p> <p>[授業の目的] 看護教育における研究課題と方法論をグローバルな視点から検討・探求することで、エビデンスと実践を有機的に繋ぐための研究方法論の生成やモデル構築を目指す。</p>
<p>(シラバス 13 ページ) 「政策・管理看護学特講」</p> <p>[授業の目的] (略) 個々の医療機関レベルから国内外の政策レベルに至る全体を俯瞰の上で検討した上で、変革を要する課題とその研究論を追究する。</p>	<p>(シラバス 13 ページ) 「政策・管理看護学特講」</p> <p>[授業の目的] (略) 個々の医療機関レベルから国の政策レベルに至る全体を俯瞰の上で検討した上で、変革を要する課題とその研究論を追究する。</p>
<p>(シラバス 15 ページ) 「高度実践開発看護学特講」</p> <p>[授業の目的] (略) その上で、広く国内外の看護実践について吟味し、専門分野を含む学際的な視点に基づいた新たな看護実践の概念枠組み及びケアの質を向上し、広く実装するための教育力を高める。以上のような看護の適用に貢献できる研究テーマと研究方法を検討することで、新たな看護学の知見を臨床で実装し、広く共有するための教育力を養う。</p> <p>[到達目標] ①高度実践開発看護学分野における国内外の課題を説明できる。 (略)</p>	<p>(シラバス 15 ページ) 「高度実践開発看護学特講」</p> <p>[授業の目的] (略) その上で、広く国内外の看護実践について吟味し、専門分野での新たな看護実践の概念枠組み及びケアの質の向上に貢献する研究テーマと研究方法を検討する。</p> <p>[到達目標] ①高度実践開発看護学分野における課題を説明できる。 (略)</p>

<p>(シラバス 17 ページ) 「生活支援開発看護学特講」</p> <p>[授業の目的] 病院及び在宅で生活・療養するあらゆるライフステージにある人々の健康問題や健康課題を生活者としての視点を中心にグローバルかつ学際的に捉え、国内外の文献を系統的に検索して過不足なく収集し、適切にクリティークすることを通して、知識の創出や看護ケア開発の可能性について検討する。 (略)</p> <p>[各回の授業内容] 第1回・2回：神崎 学生の関心ある概念や健康課題について慢性看護学領域を中心とし学際的に幅広い文献収集を実施し、得られた文献を考察し学修を深める。</p> <p>第3回・4回：堀口 学生の関心ある地域・在宅看護における健康課題を解決するため、社会情勢、医療保健福祉制度、経済、文化・価値観など学際的な視点で国内外の文献を検討し、新たな看護の開発と実装化に向けて検討する。</p> <p>第5回・6回：西村 学生の関心のあるリプロダクティブヘルスにおける課題について、ライフステージ、医療、教育、倫理、文化、歴史的側面など学際的な視点で幅広く国内外の文献を検討し、今後の研究の方向性や研究成果を臨床現場に実装化する方法について検討する (略)</p>	<p>(シラバス 17 ページ) 「生活支援開発看護学特講」</p> <p>[授業の目的] 病院及び在宅で生活・療養するあらゆるライフステージにある人々の健康問題や健康課題を生活者としての視点を中心に多角的、学際的に捉え、国内外の文献を系統的に検索して過不足なく収集し、適切にクリティークすることを通して、知識の創出や看護ケア開発の可能性について検討する。 (略)</p> <p>[各回の授業内容] 第1回・2回：神崎 学生の関心ある概念や健康課題について慢性看護学領域を中心とし多角的で幅広い文献収集を実施し、得られた文献を考察し学修を深める。</p> <p>第3回・4回：堀口 学生の関心のある地域・在宅ケアにおける健康課題について、医療保健福祉制度、社会情勢、経済、文化・価値観など多角的な視点で国内外の文献を検討し、新たな看護ケアの開発と実装化に向けて検討する。</p> <p>第5回・6回：西村 学生の関心のあるリプロダクティブヘルスにおける課題について、ライフステージ、医療、教育、倫理、文化、歴史的側面など多角的な視点で幅広く国内外の文献を検討し、今後の研究の方向性や研究成果を臨床現場に実装化する方法について検討する。 (略)</p>
---	---

(新旧対照表) 設置等の趣旨等を記載した書類 (本文)

新	旧
<p>(設置等の趣旨 (本文) 14 ページ～)</p> <p>エ)「看護システム開発学」 (略)</p> <p>Society 5.0 における看護システムの創造、変革のありようについてグローバルかつ学際的な視点から検討する。 (略)</p>	<p>(設置等の趣旨 (本文) 14 ページ～)</p> <p>エ)「看護システム開発学」 (略)</p> <p>Society 5.0 における看護システムの創造、変革のありようについて検討する。 (略)</p>
<p>■「専門科目」 (略)</p> <p>イ)「看護教育学特講」 看護学教育実践における諸理論や主要概念について国内外の実践・研究の動向を検証し、看護教育学における国内外の諸理論をもとに、実践現場における諸問題についてその背景や発生に影響を及ぼしている要因を分析し、看護教育学領域における看護研究の課題や方法論的な課題を検討・探求する。看護における高度な実践に着目し明らかにするための研究方法論の開発やモデル・理論構築の方法論について学際的な視点から展望し、批判的思考、創造的思考のもとに探求する。 (略)</p>	<p>■「専門科目」 (略)</p> <p>イ)「看護教育学特講」 看護学教育実践における諸理論や主要概念について国内外の実践・研究の動向を検証し、看護教育学における諸理論をもとに、実践現場における諸問題についてその背景や発生に影響を及ぼしている要因を分析し、看護教育学領域における看護研究の課題や方法論的な課題を検討・探求する。看護における高度な実践に着目し明らかにするための研究方法論の開発やモデル・理論構築の方法論について、批判的思考、創造的思考のもとに探求する。 (略)</p>
<p>ウ)「政策・管理看護学特講」 看護管理・政策に関する各自の関心・問題意識を共有し、看護管理・政策に関する各自が関心のある現象について、看護学や様々な学問分野における国内外の文献・書籍の検討を通して理解を深めるとともに、自己の研究テーマを検討する。 (略)</p>	<p>ウ)「政策・管理看護学特講」 看護管理・政策に関する各自の関心・問題意識を共有し、看護管理・政策に関する各自が関心のある現象について、国内外の文献・書籍の検討を通して理解を深めるとともに、自己の研究テーマを検討する。 (略)</p>
<p>エ)「高度実践開発看護学特講」 (略)</p> <p>周手術期看護、クリティカルケア、救急看護、がん看護の視点を重視した専門分野における課題をグローバルかつ学際的な視</p>	<p>エ)「高度実践開発看護学特講」 (略)</p> <p>周手術期看護、クリティカルケア、救急看護、がん看護の視点を重視した専門分野における課題を明確にし、最新の知見や動</p>

<p>点から明確にし、最新の知見や動向、さらには知識の創出や看護ケアの開発について理解を深め、関心ある研究テーマへと発展させるための理論開発及び研究手法を検討する。</p> <p>(略)</p>	<p>向、さらには知識の創出や看護ケアの開発について理解を深め、関心ある研究テーマへと発展させるための理論開発及び研究手法を検討する。</p> <p>(略)</p>
---	--

(是正事項) 看護学研究科 看護学専攻 (D)

【教育課程等】

2. 「設置の趣旨等を記載した書類 (資料)」の「資料1 博士後期課程ディプロマ・ポリシー・カリキュラム・ポリシー・授業科目・アドミッション・ポリシー関係図」において、授業科目「看護科学研究論」、「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」及び「特別研究Ⅲ」がDP4に対応していることが示されているが、上記科目の「シラバス」を確認すると、DP4に掲げる「次代を牽引する看護専門職者を指導できる教育力」を修得するような授業内容になっているとは見受けられず、ディプロマ・ポリシーと授業科目の対応関係が適切に整合しているのか疑義がある。このため、DP4に対応する授業科目について、当該科目の内容がDP4に整合しており、対応関係が適切であることについて具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

当初は「看護科学研究論」及び「特別研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」もDP4と関連付けていた。教育課程、シラバス、DPを再検討した結果、①「看護科学研究論」及び「特別研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」はDP4との対応は削除する。② DP4が示す力は主として専門科目(特講5科目)で修得できるよう内容を調整した。今回はDP4との対応なしとした専門2科目(「高度実践開発看護学特講」、「生活支援開発看護学特講」)は新たに実装に求められる教育の視点を追記する。シラバスの変更に伴い、授業科目の概要、「設置等の趣旨を記載した文書(資料)」の「科目とポリシー関係図」も対応する箇所を修正した。

また、基礎科目の「看護倫理学」、「理論看護学」も引き続きDP4の対応科目とし、「理論看護学」のシラバス及び「設置等の趣旨を記載した文書(本文)」に記載の文言を改める。

《審査意見への対応を記載した書類(資料)》

(資料1) 授業科目の概要

(資料2) ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、授業科目、アドミッション・ポリシー関係図

(資料4) シラバス

(新旧対照表) 基本計画書 (審査意見(資料)資料1)

新	旧
(授業科目の概要 14 ページ) 「理論看護学」	(授業科目の概要 12 ページ) 「理論看護学」
■授業科目の概要 (略) 第7回: 看護理論の活用可能性の評価、及び看護実践、研究、教育の場における理論教育について学修する	■授業科目の概要 (略) 第7回: 看護理論の活用可能性の評価について学修する

(略)	(略)
<p>(授業科目の概要 19 ページ) 「看護ケア実践開発科学特講」</p> <p>■授業科目の概要 (略) 第8回：土田 Implementation Science を紹介し、看護技術と看護ケアの臨床実践現場への実装を通して発信・変革・教育について学修する。</p> <p>(略)</p> <p>第8回：鈴木 Implementation Science を紹介し、看護技術と看護ケアの臨床実践現場への実装を通して発信・変革・教育について学修する。</p>	<p>(授業科目の概要 17 ページ) 「看護ケア実践開発科学特講」</p> <p>■授業科目の概要 (略) 第8回：土田 看護技術と看護ケアの臨床実践現場への実装について学修する。</p> <p>(略)</p> <p>第8回：鈴木 看護技術と看護ケアの臨床実践現場への実装について学修する。</p>
<p>(授業科目の概要 21 ページ) 「政策・管理看護学特講」</p> <p>■授業科目の概要 (略)</p> <p>第6回・7回：林 各自が選択した現象を探究することが、看護学の知の蓄積と看護実践の開発の双方において、どのように貢献するかについて考察し、実装化に向けた教育について検討することができる。</p> <p>(略)</p>	<p>(授業科目の概要 19 ページ) 「政策・管理看護学特講」</p> <p>■授業科目の概要 (略)</p> <p>第6回・7回：林 各自が選択した現象を探究することが、看護学の知の蓄積と看護実践の開発の双方において、どのように貢献するかについて考察する。</p> <p>(略)</p>
<p>(授業科目の概要 22 ページ) 「高度実践開発看護学特講」</p> <p>■授業科目の目的 (略)</p> <p>その上で、広く国内外の看護実践について吟味し、専門分野を含む学際的な視点に基づいた新たな看護実践の概念枠組み及び</p>	<p>(授業科目の概要 20～21 ページ) 「高度実践開発看護学特講」</p> <p>■授業科目の目的 (略)</p> <p>その上で、広く国内外の看護実践について吟味し、専門分野での新たな看護実践の概念枠組み及びケアの質の向上に貢献する</p>

<p>ケアの質を向上し、広く実装するための教育力を高める。以上のような看護の適用に貢献できる研究テーマと研究方法を検討することで、新たな看護学の知見を臨床で実装し、広く共有するための教育力を養う。</p> <p>■授業科目の概要 (略) ・高度な看護実践を臨床現場に適応するための方略を構築する教育力を養う。 (略)</p> <p>第8回：森 関心のある研究テーマに関連したプレゼンテーション学生の関心ある課題について、研究の動向と関連する概念や理論、臨床現場に適用するための方略についてプレゼンテーションする。 (略)</p> <p>第8回：府川 関心のある研究テーマに関連したプレゼンテーション学生の関心ある課題について、研究の動向と関連する概念や理論、臨床現場に適用するための方略についてプレゼンテーションする。</p>	<p>研究テーマと研究方法を検討する。</p> <p>■授業科目の概要 (略) 追記 (略)</p> <p>第8回：森 関心のある研究テーマに関連したプレゼンテーション学生の関心ある課題について、研究の動向と関連する概念や理論についてプレゼンテーションする。 (略)</p> <p>第8回：府川 関心のある研究テーマに関連したプレゼンテーション学生の関心ある課題について、研究の動向と関連する概念や理論についてプレゼンテーションする。</p>
<p>(授業科目の概要 24 ページ) 「生活支援開発看護学特講」</p> <p>■授業科目の目的 (略) 研究成果を臨床現場に実装化する方法について探求する。また、看護職への教育力の向上を目指す。これらのプロセスを通して各自の研究課題を明確にする。 (略)</p> <p>第7・8回：今野 学生の関心のある高齢者ケア関連の課題</p>	<p>(授業科目の概要 22 ページ) 「生活支援開発看護学特講」</p> <p>■授業科目の目的 (略) 研究成果を臨床現場に実装化する方法について探求する。これらのプロセスを通して各自の研究課題を明確にする。 (略)</p> <p>第7・8回：今野 学生の関心のある高齢者ケア関連の課題</p>

<p>について、国内外の先行研究を検討し、理解と考察を深めるとともに、研究エビデンスの実装化に求められる教育について検討する。 (略)</p>	<p>について、国内外の先行研究を検討し、理解と考察を深めるとともに、研究エビデンスの実装化について検討する。 (略)</p>
---	--

(新旧対照表) シラバス (審査意見(資料)資料4)

新	旧
<p>(シラバス 3 ページ) 「看護科学研究論」</p> <p>[授業と DP・CP との関連] (略) (削除)</p> <p>(略)</p>	<p>(シラバス 3 ページ) 「看護科学研究論」</p> <p>[授業と DP・CP との関連] (略) DP4：次代を牽引する看護専門職者を指導できる教育力を有する。 (略)</p>
<p>(シラバス 4 ページ) 「理論看護学」</p> <p>[各回の授業内容] (略) 第7回： 看護理論の活用可能性の評価、及び看護実践、研究、教育の場における理論教育について学修する。 (略)</p>	<p>(シラバス 4 ページ) 「理論看護学」</p> <p>[各回の授業内容] (略) 第7回： 看護理論の活用可能性の評価について学修する。 (略)</p>
<p>(シラバス 10 ページ) 「看護ケア実践開発科学特講」</p> <p>[各回の授業内容] (略) 第8回：土田、鈴木 Implementation Science を紹介し、看護技術と看護ケアの臨床実践現場への実装を通して発信・変革・教育について学修する。</p>	<p>(シラバス 10 ページ) 「看護ケア実践開発科学特講」</p> <p>[各回の授業内容] (略) 第8回：土田、鈴木 看護技術と看護ケアの臨床実践現場への実装について学修する。</p>

<p>(シラバス 13 ページ) 「政策・管理看護学特講」</p> <p>[各回の授業内容] (略) 第6回・7回：林 各自が選択した現象を探究することが、看護学の知の蓄積と看護実践の開発の双方において、どのように貢献するかについて考察し、実装化に向けた教育について検討することができる。 (略)</p> <p>[到達目標] (略) ⑤知見の実装化に求められる教育について説明することができる。</p>	<p>(シラバス 13 ページ) 「政策・管理看護学特講」</p> <p>[各回の授業内容] (略) 第6回・7回：林 各自が選択した現象を探究することが、看護学の知の蓄積と看護実践の開発の双方において、どのように貢献するかについて考察する。 (略)</p> <p>[到達目標] (略) (⑤を追記)</p>
<p>(シラバス 15 ページ) 「高度実践開発看護学特講」</p> <p>[授業の目的] (略) その上で、広く国内外の看護実践について吟味し、専門分野を含む学際的な視点に基づいた新たな看護実践の概念枠組み及びケアの質を向上し、広く実装するための教育力を高める。以上のような看護の適用に貢献できる研究テーマと研究方法を検討することで、新たな看護学の知見を臨床で実装し、広く共有するための教育力を養う。</p> <p>[授業の概要] (略) ・治療期から終末期までの意思決定に関わる諸課題を明らかにする。 ・高度な看護実践を臨床現場に適応するための方略を構築する教育力を養う。 ・高度実践開発看護学における関心あるテーマについて課題を明確にする。</p>	<p>(シラバス 15 ページ) 「高度実践開発看護学特講」</p> <p>[授業の目的] (略) その上で、広く国内外の看護実践について吟味し、専門分野での新たな看護実践の概念枠組み及びケアの質の向上に貢献する研究テーマと研究方法を検討する。</p> <p>[授業の概要] (略) ・治療期から終末期までの意思決定に関わる諸課題を明らかにする。 ・高度実践開発看護学における関心あるテーマについて課題を明確にする。</p>

<p>[各回の授業内容] (略) 第8回：森・府川 関心のある研究テーマに関連したプレゼンテーション 学生の関心ある課題について、研究の動向と関連する概念や理論、臨床現場に適用するための方略についてプレゼンテーションする。</p> <p>[到達目標] (略) ④高度な看護実践を臨床現場に適用するための方略について説明できる。</p> <p>[授業と DP・CP との関連] (略) DP4：次代を牽引する看護専門職者を指導できる教育力を有する。 (略)</p>	<p>[各回の授業内容] (略) 第8回：森・府川 関心のある研究テーマに関連したプレゼンテーション 学生の関心ある課題について、研究の動向と関連する概念や理論についてプレゼンテーションする。</p> <p>[到達目標] (略) (④を追記)</p> <p>[授業と DP・CP との関連] (略) (DP4 を追記) (略)</p>
<p>(シラバス 17 ページ) 「生活支援開発看護学特講」</p> <p>[授業の目的] (略) また、トランスレーショナルリサーチの手法を用いて、研究成果を臨床現場に実装化する方法について探求する。また、看護職への教育力の向上を目指す。これらのプロセスを通して各自の研究課題を明確にする。</p> <p>[各回の授業内容] (略) 第7回・8回：今野 学生の関心のある高齢者ケア関連の課題について、国内外の先行研究を検討し理解と考察を深めるとともに、研究エビデンスの実装化に求められる教育について検討する。</p>	<p>(シラバス 17 ページ) 「生活支援開発看護学特講」</p> <p>[授業の目的] (略) また、トランスレーショナルリサーチの手法を用いて、研究成果を臨床現場に実装化する方法について探求する。これらのプロセスを通して各自の研究課題を明確にする。</p> <p>[各回の授業内容] (略) 第7回・8回：今野 学生の関心のある高齢者ケア関連の課題について、国内外の先行研究を検討し理解と考察を深めるとともに、研究エビデンスの実装化について検討する。</p>

<p>[到達目標] (略) ② 健康課題について多角的、学際的に文献を収集してクリティークし、研究の方向性と臨床に実装化する方法、及び必要となる教育について検討することができる。</p> <p>[授業と DP・CP との関係] (略) DP4：次代を牽引する看護専門職者を指導できる教育力を有する。 (略)</p>	<p>[到達目標] (略) ② 健康課題について多角的、学際的に文献を収集してクリティークし、研究の方向性と臨床に実装化する方法について検討することができる。</p> <p>[授業と DP・CP との関係] (略) (DP4 を追記) (略)</p>
<p>(シラバス 20 ページ) 「特別研究 I」</p> <p>[授業と DP・CP との関係] (略) (削除) (略)</p>	<p>(シラバス 20 ページ) 「特別研究 I」</p> <p>[授業と DP・CP との関係] (略) DP4：次代を牽引する看護専門職者を指導できる教育力を有する。 (略)</p>
<p>(シラバス 22 ページ) 「特別研究 II」</p> <p>[授業と DP・CP との関係] (略) (削除) (略)</p>	<p>(シラバス 22 ページ) 「特別研究 II」</p> <p>[授業と DP・CP との関係] (略) DP4：次代を牽引する看護専門職者を指導できる教育力を有する。 (略)</p>
<p>(シラバス 23 ページ) 「特別研究 III」</p> <p>[授業と DP・CP との関係] (略) (削除) (略)</p>	<p>(シラバス 23 ページ) 「特別研究 III」</p> <p>[授業と DP・CP との関係] (略) DP4：次代を牽引する看護専門職者を指導できる教育力を有する。 (略)</p>

(新旧対照表) 設置等の趣旨を記載した書類 (本文)

新	旧
<p>(設置等の趣旨 (本文) 13 ページ～)</p> <p>3) 各科目の授業科目の概要と特色</p> <p>■「基礎科目」</p> <p>(略)</p> <p>ウ)「看護倫理学」</p> <p>(略)</p> <p>看護学の発展に必要な研究の遂行において、各研究領域における倫理的課題を抽出・分析し、対応するための能力を修得するとともに、教育・実践・研究における倫理教育について学修する。</p> <p>(略)</p> <p>■「専門科目」</p> <p>(略)</p> <p>ア)「看護ケア実践開発科学特講」</p> <p>(略)</p> <p>諸理論や国内外の研究並びにディスカッションを通して、看護技術と看護ケアのエビデンスの開発における諸課題を分析し解決するための方略について考察し、さらにエビデンス実装における教育について検討する。</p> <p>(略)</p> <p>ウ)「政策・管理看護学特講」</p> <p>(略)</p> <p>それらを通して看護サービスの質を保証する組織とシステムのあり方を、個別医療機関の経営管理から地方公共団体や国家レベルの政策過程に至る全体を俯瞰しながら検討し、具体的な変革プランの開発に資する研究を追究する。さらに、政策や管理に関する研究の社会実装に必要な教育について探求する。</p>	<p>(設置等の趣旨 (本文) 13 ページ～)</p> <p>3) 各科目の授業科目の概要と特色</p> <p>■「基礎科目」</p> <p>(略)</p> <p>ウ)「看護倫理学」</p> <p>(略)</p> <p>看護学の発展に必要な研究の遂行において、各研究領域における倫理的課題を抽出・分析し、対応するための能力を修得する。</p> <p>(略)</p> <p>■「専門科目」</p> <p>(略)</p> <p>ア)「看護ケア実践開発科学特講」</p> <p>(略)</p> <p>諸理論や国内外の研究並びにディスカッションを通して、看護技術と看護ケアのエビデンスの開発における諸課題を分析し解決するための方略について考察する。</p> <p>(略)</p> <p>ウ)「政策・管理看護学特講」</p> <p>(略)</p> <p>それらを通して看護サービスの質を保証する組織とシステムのあり方を、個別医療機関の経営管理から地方公共団体や国家レベルの政策過程に至る全体を俯瞰しながら検討し、具体的な変革プランの開発に資する研究を追究する。</p>

エ)「高度実践開発看護学特講」

(略)

その上で、広く国内外の看護実践について吟味し、専門分野での新たな看護実践の概念枠組み及びケアの質の向上に貢献する研究テーマと研究方法を検討し、新たな知見を臨床で実装し、広く共有するための教育について探求する。

オ)「生活支援開発看護学特講」

(略)

また、トランスレーショナルリサーチの手法を用いて、研究成果を臨床現場に実装化する方法や実装化に求められる教育について探求する。これらのプロセスを通して各自の研究課題を明確にする。

エ)「高度実践開発看護学特講」

(略)

その上で、広く国内外の看護実践について吟味し、専門分野での新たな看護実践の概念枠組み及びケアの質の向上に貢献する研究テーマと研究方法を検討する。

オ)「生活支援開発看護学特講」

(略)

また、トランスレーショナルリサーチの手法を用いて、研究成果を臨床現場に実装化する方法について探求する。これらのプロセスを通して各自の研究課題を明確にする。

(新旧対照表) 設置等の趣旨を記載した書類 (資料) (審査意見 (資料) 資料2)

新						旧																																																																																																																																					
(設置等の趣旨 (資料) 3ページ～)		DP1	DP2	DP3	DP4	(設置等の趣旨 (資料) 3ページ～)		DP1	DP2	DP3	DP4																																																																																																																																
資料1 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、授業科目、アドミッション・ポリシー関係図						資料1 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、授業科目、アドミッション・ポリシー関係図 (3・4ページ)																																																																																																																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">設置科目・授業科目</th> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> <th>DP4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">基礎科目</td> <td>看護科学研究論</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>理論看護学</td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>看護倫理学</td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>看護システム開発学</td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">専門科目</td> <td>看護ケア実践開発看護学特講</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>看護教育学特講</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>政策・管理看護学特講</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>高度実践開発看護学特講</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">研究科目</td> <td>特別研究Ⅰ</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別研究Ⅱ</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別研究Ⅲ</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		設置科目・授業科目		DP1	DP2	DP3	DP4	基礎科目	看護科学研究論	◎	◎	◎		理論看護学	◎		◎	◎	看護倫理学	◎		◎	◎	看護システム開発学	◎		◎		専門科目	看護ケア実践開発看護学特講	◎	◎		◎	看護教育学特講	◎	◎		◎	政策・管理看護学特講	◎	◎		◎	高度実践開発看護学特講	◎	◎		◎	研究科目	特別研究Ⅰ	◎	◎	◎		特別研究Ⅱ	◎	◎	◎		特別研究Ⅲ	◎	◎	◎						<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">設置科目・授業科目</th> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> <th>DP4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">基礎科目</td> <td>看護科学研究論</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>理論看護学</td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>看護倫理学</td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>看護システム開発学</td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">専門科目</td> <td>看護ケア実践開発看護学特論</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>看護教育学特論</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>政策・管理看護学特論</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>高度実践開発看護学特論</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">研究科目</td> <td>特別研究Ⅰ</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>特別研究Ⅱ</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>特別研究Ⅲ</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table>		設置科目・授業科目		DP1	DP2	DP3	DP4	基礎科目	看護科学研究論	◎	◎	◎	◎	理論看護学	◎		◎	◎	看護倫理学	◎		◎	◎	看護システム開発学	◎		◎		専門科目	看護ケア実践開発看護学特論	◎	◎		◎	看護教育学特論	◎	◎		◎	政策・管理看護学特論	◎	◎		◎	高度実践開発看護学特論	◎	◎		◎	研究科目	特別研究Ⅰ	◎	◎	◎	◎	特別研究Ⅱ	◎	◎	◎	◎	特別研究Ⅲ	◎	◎	◎	◎				
設置科目・授業科目		DP1	DP2	DP3	DP4																																																																																																																																						
基礎科目	看護科学研究論	◎	◎	◎																																																																																																																																							
	理論看護学	◎		◎	◎																																																																																																																																						
	看護倫理学	◎		◎	◎																																																																																																																																						
	看護システム開発学	◎		◎																																																																																																																																							
専門科目	看護ケア実践開発看護学特講	◎	◎		◎																																																																																																																																						
	看護教育学特講	◎	◎		◎																																																																																																																																						
	政策・管理看護学特講	◎	◎		◎																																																																																																																																						
	高度実践開発看護学特講	◎	◎		◎																																																																																																																																						
研究科目	特別研究Ⅰ	◎	◎	◎																																																																																																																																							
	特別研究Ⅱ	◎	◎	◎																																																																																																																																							
	特別研究Ⅲ	◎	◎	◎																																																																																																																																							
設置科目・授業科目		DP1	DP2	DP3	DP4																																																																																																																																						
基礎科目	看護科学研究論	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																						
	理論看護学	◎		◎	◎																																																																																																																																						
	看護倫理学	◎		◎	◎																																																																																																																																						
	看護システム開発学	◎		◎																																																																																																																																							
専門科目	看護ケア実践開発看護学特論	◎	◎		◎																																																																																																																																						
	看護教育学特論	◎	◎		◎																																																																																																																																						
	政策・管理看護学特論	◎	◎		◎																																																																																																																																						
	高度実践開発看護学特論	◎	◎		◎																																																																																																																																						
研究科目	特別研究Ⅰ	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																						
	特別研究Ⅱ	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																						
	特別研究Ⅲ	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																						
<p>博士後期課程 「ディプロマ・ポリシー」と「カリキュラム・ポリシー」の関係</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">カリキュラム・ポリシー</th> <th colspan="4">ディプロマ・ポリシー</th> </tr> <tr> <th>①グローバル化や国際化に対応し、国際的な視野を養い、国際社会で活躍できる人材を育成する。</th> <th>②国内外の最新研究動向及び看護実践の場において研究開発を推進し、国際的な看護実践に貢献する人材を育成する。</th> <th>③地域社会に貢献する看護実践を推進する。</th> <th>④社会を担う専門職として必要な知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育成する。</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①グローバル化や国際化に対応し、国際的な視野を養い、国際社会で活躍できる人材を育成する。</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>②国内外の最新研究動向及び看護実践の場において研究開発を推進し、国際的な看護実践に貢献する人材を育成する。</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>③地域社会に貢献する看護実践を推進する。</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>④社会を担う専門職として必要な知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育成する。</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table>		カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー				①グローバル化や国際化に対応し、国際的な視野を養い、国際社会で活躍できる人材を育成する。	②国内外の最新研究動向及び看護実践の場において研究開発を推進し、国際的な看護実践に貢献する人材を育成する。	③地域社会に貢献する看護実践を推進する。	④社会を担う専門職として必要な知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育成する。	①グローバル化や国際化に対応し、国際的な視野を養い、国際社会で活躍できる人材を育成する。	◎	○	◎	◎	②国内外の最新研究動向及び看護実践の場において研究開発を推進し、国際的な看護実践に貢献する人材を育成する。	◎	◎	○	◎	③地域社会に貢献する看護実践を推進する。	◎	◎	◎	◎	④社会を担う専門職として必要な知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育成する。	◎	◎	◎	◎					<p>博士後期課程 「ディプロマ・ポリシー」と「カリキュラム・ポリシー」の関係</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">カリキュラム・ポリシー</th> <th colspan="4">ディプロマ・ポリシー</th> </tr> <tr> <th>①グローバル化や国際化に対応し、国際的な視野を養い、国際社会で活躍できる人材を育成する。</th> <th>②国内外の最新研究動向及び看護実践の場において研究開発を推進し、国際的な看護実践に貢献する人材を育成する。</th> <th>③地域社会に貢献する看護実践を推進する。</th> <th>④社会を担う専門職として必要な知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育成する。</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①グローバル化や国際化に対応し、国際的な視野を養い、国際社会で活躍できる人材を育成する。</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>②国内外の最新研究動向及び看護実践の場において研究開発を推進し、国際的な看護実践に貢献する人材を育成する。</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>③地域社会に貢献する看護実践を推進する。</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>④社会を担う専門職として必要な知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育成する。</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table>		カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー				①グローバル化や国際化に対応し、国際的な視野を養い、国際社会で活躍できる人材を育成する。	②国内外の最新研究動向及び看護実践の場において研究開発を推進し、国際的な看護実践に貢献する人材を育成する。	③地域社会に貢献する看護実践を推進する。	④社会を担う専門職として必要な知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育成する。	①グローバル化や国際化に対応し、国際的な視野を養い、国際社会で活躍できる人材を育成する。	◎	○	◎	◎	②国内外の最新研究動向及び看護実践の場において研究開発を推進し、国際的な看護実践に貢献する人材を育成する。	◎	◎	○	◎	③地域社会に貢献する看護実践を推進する。	◎	◎	◎	◎	④社会を担う専門職として必要な知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育成する。	◎	◎	◎	◎																																																																										
カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー																																																																																																																																										
	①グローバル化や国際化に対応し、国際的な視野を養い、国際社会で活躍できる人材を育成する。	②国内外の最新研究動向及び看護実践の場において研究開発を推進し、国際的な看護実践に貢献する人材を育成する。	③地域社会に貢献する看護実践を推進する。	④社会を担う専門職として必要な知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育成する。																																																																																																																																							
①グローバル化や国際化に対応し、国際的な視野を養い、国際社会で活躍できる人材を育成する。	◎	○	◎	◎																																																																																																																																							
②国内外の最新研究動向及び看護実践の場において研究開発を推進し、国際的な看護実践に貢献する人材を育成する。	◎	◎	○	◎																																																																																																																																							
③地域社会に貢献する看護実践を推進する。	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																							
④社会を担う専門職として必要な知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育成する。	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																							
カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー																																																																																																																																										
	①グローバル化や国際化に対応し、国際的な視野を養い、国際社会で活躍できる人材を育成する。	②国内外の最新研究動向及び看護実践の場において研究開発を推進し、国際的な看護実践に貢献する人材を育成する。	③地域社会に貢献する看護実践を推進する。	④社会を担う専門職として必要な知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育成する。																																																																																																																																							
①グローバル化や国際化に対応し、国際的な視野を養い、国際社会で活躍できる人材を育成する。	◎	○	◎	◎																																																																																																																																							
②国内外の最新研究動向及び看護実践の場において研究開発を推進し、国際的な看護実践に貢献する人材を育成する。	◎	◎	○	◎																																																																																																																																							
③地域社会に貢献する看護実践を推進する。	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																							
④社会を担う専門職として必要な知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育成する。	◎	◎	◎	◎																																																																																																																																							
◎：関連性が強い ○：関連がある						◎：関連性が強い ○：関連がある																																																																																																																																					

(その他) 看護学研究科 看護学専攻 (D)

【審査意見以外への対応事項】

1. 「看護システム開発学」シラバスの中でグループワークをするような内容を予定しているが、博士後期課程の定員が2名となり、本科目が選択科目という位置付けで履修しない者がいた場合、履修者が1名となった場合の対応について説明を追記する。

(対応)

当初は学生2名と教員でのディスカッションを想定したが、受講生1名の場合について、看護学研究科内でテーマに興味のある教員もディスカッションに参加することで、活発な議論展開を期待するとした。

《審査意見(以外)への対応を記載した書類(資料)》
(資料4) シラバス

(新旧対照表) シラバス (審査意見(資料) 資料4)

新	旧
(シラバス 9 ページ) 「看護システム開発学」 [教材] (略) 学修内容を踏まえ、研究、実践的課題を分析し、ディスカッション、個人プレゼンテーションを通して、具体的なシステム提案を行う。ディスカッションは、学生、科目担当教員に加え、テーマに興味のある看護学研究科教員なども参加することで活発な議論を促す。	(シラバス 9 ページ) 「看護システム開発学」 [教材] (略) 学修内容を踏まえ、研究、実践的課題を分析し、グループディスカッション、個人プレゼンテーションを通して、具体的なシステム提案を行う。

(その他) 看護学研究科 看護学専攻 (D)

【審査意見以外への対応事項】

2. 学位論文審査の合格が「特別研究Ⅲ」の単位修得の要件に入っていないことが明確になるよう説明を追記する。

(対応)

「特別研究Ⅲ」は論文の投稿受理をもって合格とし、修了要件に必要な単位数修得認定、続いて、投稿論文の掲載受理の確認をもって、学位論文審査の開始を願いできる、という一連のプロセスが誤解なく伝わるように、「設置等の趣旨を記載した書類(本文)」の「5(2)2」【表4 入学から修了までの標準的なスケジュール】を修正した。3年次の投稿論文受理の確認が遅い時期の可能性が高く、4月から12月とゆとりをもたせた。また、3年次年度末の学位授与・論文公表は学位論文と加筆し修正した。

(新旧対照表) 設置等の趣旨を記載した書類(本文)

新			旧		
(設置等の趣旨(本文) 21 ページ)			(設置等の趣旨(本文) 21 ページ)		
【表4 入学から修了までの標準的なスケジュール】			【表4 入学から修了までの標準的なスケジュール】		
年次	月	研究活動	年次	月	研究活動
1年	4月	主指導教員の決定 履修ガイダンス 履修計画書の提出	1年	4月	主指導教員の決定 履修ガイダンス 履修計画書の提出
	5月	副指導教員の決定		5月	副指導教員の決定
	5~3月	中間報告会Ⅰ		5~3月	中間報告会Ⅰ
	年度末	研究活動報告書提出		年度末	研究活動報告書提出
2年	4~3月 年度末	データ収集・分析、中間報告会Ⅱ 研究活動報告書提出	2年	4~3月 年度末	データ収集・分析、中間報告会Ⅱ 研究活動報告書提出
3年	4~12月	学位論文に関連する論文の投稿受理 修了要件に必要な単位数修得認定 投稿論文の掲載受理の確認 学位論文審査委員会の設置	3年	4~10月	学位論文に関連する論文の投稿
	1月	学位論文提出		11~12月	学位論文審査委員会
	1月	学位論文審査(公聴会)		1月	学位論文提出
	2月	最終試験(口頭試問)		2月	学位論文審査(公聴会)
	2月	学位論文審査結果の審議		2月	最終試験(口頭試問)
3月	学長による合否決定	3月	学位論文審査結果の審議		
3月	学位授与(修了)・学位論文公表	3月	学長による合否決定		
			年度末	学位授与(修了)・論文公表	

(その他) 看護学研究科 看護学専攻 (D)

【審査意見以外への対応事項】

3. 学位論文審査の時期が1月～3月に限定されないことが明確になるよう記載場所を修正する。

(対応)

「兵庫医科大学大学院看護学研究科博士後期課程 学位論文審査に関する内規 (案)」において、9月修了の場合の補足説明を記載していたが、確認しにくい箇所となっていたため、記載場所を変更する。

《審査意見(以外)への対応を記載した書類 (資料) 》

(資料5) 学位論文審査に関する内規

(新旧対照表) 設置等の趣旨を記載した書類 (資料) (審査意見 (資料) 資料5)

新	旧
(設置等の趣旨 (資料) 42 ページ)	(設置等の趣旨 (資料) 43～44 ページ)
(学位論文審査の申請書類の提出期限) 第4条 前条に定める書類の提出期限は、毎年度1月とする。なお、9月修了の場合には、前条に定める書類の提出期限を学位論文審査の申請年度の7月とする。 (略)	(学位論文審査の申請書類の提出期限) 第4条 前条に定める書類の提出期限は、毎年度1月とする。 (略) 附 則 この内規は、 202 2025 年 4 月 1 日から施行する。 ※なお、9 月修了の場合には第4条の1月を学位申請年度の7月とする。

(その他) 看護学研究科 看護学専攻 (D)

【審査意見以外への対応事項】
 4. 博士後期課程の基礎となる修士課程の課程名の変更

(変更内容及び理由)

博士後期課程との繋がりを明確にするため、博士後期課程の設置に併せ、修士課程を博士前期課程に変更し、博士前期課程・博士後期課程の区分制博士課程とする。

《審査意見(以外)への対応を記載した書類(資料)》

- (資料1) 授業科目の概要
- (資料3) 基本計画書・教育課程の概要
- (資料4) シラバス
- (資料5) 兵庫医科大学大学院看護学研究科博士後期課程 学位論文審査に関する内規(案)
- (資料6) 兵庫医科大学大学院学則(案)
- (資料7) 変更部分の新旧対照表
- (資料8) 兵庫医科大学学位規程(案)
- (資料9) 兵庫医科大学大学院看護学研究科履修規程(案)
- (資料10) 兵庫医科大学大学院長期履修規程(案)
- (資料11) 兵庫医科大学大学院看護学研究科研究指導に関する申し合わせ
- (資料12) 兵庫医科大学大学院看護学研究科早期修了に関する規程(案)
- (資料13) 兵庫医科大学大学院看護学研究科学位論文審査基準
- (資料14) 修士課程(博士前期課程)科目と博士後期課程科目の連関図
- (資料15) 学生確保(資料)別紙2

(新旧対照表) 基本計画書 (審査意見(資料)資料1、3)

新										旧											
(基本計画書 1 ページ)										(基本計画書 1 ページ)											
・令和5年4月名称変更予定 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 → 看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程 ・令和5年4月名称変更済 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 → 看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程 医療科学研究科 医療科学専攻 → リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 医療科学研究科 医療科学専攻 → リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士後期課程 (2) (令和5年3月認可申請)										・令和5年4月名称変更予定 (令和5年6月届出済) 医療科学研究科 医療科学専攻 → リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 ・令和5年4月名称変更済 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 → 看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程 (2) (令和5年3月認可申請)											
教育課程		看護学研究科 看護学専攻		開設予定授業科目の総数				終了要件単位数		1.4単位		看護学研究科 看護学専攻		開設予定授業科目の総数				終了要件単位数		1.4単位	
		9科目	3科目	3科目	0科目	12科目	計	9科目	12科目					9科目	0科目	12科目	計	9科目	12科目		
研究科等の名称		看護学研究科 看護学専攻		専任教員		助教		計		助手		看護学研究科 看護学専攻		専任教員		助教		計		助手	
		16	0	2	0	24	0	0	0	24	0	0	0	0	24	0	0	0	24	0	0
新		看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程)		16	0	2	0	24	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	24	0	0
		(15)	(6)	(2)	(0)	(23)	(0)	(6)	(0)	(6)	(0)	(0)	(0)	(0)	(23)	(0)	(0)	(6)	(0)	(0)	(0)
改		リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻		18	0	0	0	28	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	28	0	0
		(8)	(6)	(9)	(0)	(23)	(0)	(6)	(0)	(6)	(0)	(0)	(0)	(23)	(0)	(0)	(6)	(0)	(0)	(0)	(0)
分		計		28	12	11	0	49	0	0	0	0	0	49	0	0	0	0	49	0	0
		(23)	(12)	(11)	(0)	(46)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(46)	(0)	(0)	(0)	(0)	(46)	(0)	(0)
既		医学研究科 医科学専攻 (博士課程)		67	31	80	138	316	0	0	0	0	0	316	0	0	0	0	316	0	0
		(67)	(31)	(80)	(138)	(316)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(316)	(-)	(-)	(-)	(-)	(316)	(-)	(-)
既		医学研究科 先端医学専攻 (博士課程)		1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0
		(1)	(0)	(0)	(1)	(2)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(2)	(-)	(-)	(-)	(-)	(2)	(-)	(-)	(-)
既		医学研究科 先端医学専攻 (博士課程)		14	9	9	11	43	0	0	0	0	0	43	0	0	0	0	43	0	0
		(14)	(9)	(9)	(11)	(43)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(43)	(0)	(0)	(0)	(0)	(43)	(0)	(0)	(0)
既		看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)		14	9	6	6	35	0	73	0	0	0	35	0	73	0	0	35	0	73
		(14)	(9)	(6)	(6)	(35)	(0)	(73)	(0)	(73)	(0)	(0)	(35)	(0)	(73)	(0)	(73)	(0)	(35)	(0)	(73)
既		看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)		9	4	7	0	20	0	25	0	0	0	20	0	25	0	0	20	0	25
		(9)	(4)	(7)	(0)	(20)	(0)	(25)	(0)	(25)	(0)	(0)	(20)	(0)	(25)	(0)	(25)	(0)	(20)	(0)	(25)
分		計		106	53	102	156	418	0	0	0	0	418	0	0	0	0	418	0	0	
		(105)	(53)	(102)	(156)	(418)	(0)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(418)	(-)	(-)	(-)	(-)	(418)	(-)	(-)	(-)
合		計		108	53	102	156	418	0	0	0	0	418	0	0	0	0	418	0	0	
		(105)	(53)	(102)	(156)	(418)	(0)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(418)	(-)	(-)	(-)	(-)	(418)	(-)	(-)	(-)

(教育課程等の概要 6 ページ～)

教育課程表(単位別)		教育課程の概要													単位				
学年	学期	科目名	単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
1	前期	基礎看護学Ⅰ	2	○															
		基礎看護学Ⅱ	2		○														
		基礎看護学Ⅲ	2			○													
	後期	基礎看護学Ⅳ	2				○												
		基礎看護学Ⅴ	2					○											
		基礎看護学Ⅵ	2						○										
		基礎看護学Ⅶ	2							○									
		基礎看護学Ⅷ	2								○								
		基礎看護学Ⅷ	2										○						
		基礎看護学Ⅷ	2											○					
		基礎看護学Ⅷ	2												○				
		基礎看護学Ⅷ	2													○			

教育課程表(単位別)		教育課程の概要													単位				
学年	学期	科目名	単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
1	前期	基礎看護学Ⅰ	2	○															
		基礎看護学Ⅱ	2		○														
		基礎看護学Ⅲ	2			○													
	後期	基礎看護学Ⅳ	2				○												
		基礎看護学Ⅴ	2					○											
		基礎看護学Ⅵ	2						○										
		基礎看護学Ⅶ	2							○									
		基礎看護学Ⅷ	2								○								
		基礎看護学Ⅷ	2									○							
		基礎看護学Ⅷ	2										○						
		基礎看護学Ⅷ	2											○					
		基礎看護学Ⅷ	2												○				

(授業科目の概要 17 ページ)
「看護システム開発学」

[講義等の内容]

■ 授業科目の概要

(略)

また、効果的及び効率的に看護システムを変革していくために、修士課程(博士前期課程)での看護管理論や看護政策論、倫理

(教育課程等の概要 6 ページ～)

教育課程表(単位別)		教育課程の概要													単位				
学年	学期	科目名	単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
1	前期	基礎看護学Ⅰ	2	○															
		基礎看護学Ⅱ	2		○														
		基礎看護学Ⅲ	2			○													
	後期	基礎看護学Ⅳ	2				○												
		基礎看護学Ⅴ	2					○											
		基礎看護学Ⅵ	2						○										
		基礎看護学Ⅶ	2							○									
		基礎看護学Ⅷ	2								○								
		基礎看護学Ⅷ	2									○							
		基礎看護学Ⅷ	2										○						
		基礎看護学Ⅷ	2											○					
		基礎看護学Ⅷ	2												○				

教育課程表(単位別)		教育課程の概要													単位				
学年	学期	科目名	単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
1	前期	基礎看護学Ⅰ	2	○															
		基礎看護学Ⅱ	2		○														
		基礎看護学Ⅲ	2			○													
	後期	基礎看護学Ⅳ	2				○												
		基礎看護学Ⅴ	2					○											
		基礎看護学Ⅵ	2						○										
		基礎看護学Ⅶ	2							○									
		基礎看護学Ⅷ	2								○								
		基礎看護学Ⅷ	2									○							
		基礎看護学Ⅷ	2										○						
		基礎看護学Ⅷ	2											○					
		基礎看護学Ⅷ	2												○				

(授業科目の概要 15 ページ)
「看護システム開発学」

[講義等の内容]

■ 授業科目の概要

(略)

また、効果的及び効率的に看護システムを変革していくために、修士課程での看護管理論や看護政策論、倫理学の知識を踏ま

学の知識を踏まえ、Society 5.0 における看護システムの創造、変革のありようについて検討する。	え、Society 5.0 における看護システムの創造、変革のありようについて検討する。
---	--

(新旧対照表) シラバス (審査意見 (資料) 資料 4)

新	旧
(シラバス 8 ページ) 「看護システム開発学」 [授業の概要] (略) また、効果的及び効率的に看護システムを変革していくために、修士課程 (博士前期課程) での看護管理論や看護政策論、倫理学の知識を踏まえ、Society 5.0 における看護システムの創造、変革のありようについて、グローバルかつ学際的な視点から検討する。	(シラバス 8 ページ) 「看護システム開発学」 [授業の概要] (略) また、効果的及び効率的に看護システムを変革していくために、前期課程での看護管理論や看護政策論、倫理学の知識を踏まえ、Society 5.0 における看護システムの創造、変革のありようについて検討する。

(新旧対照表) 学則 (審査意見 (資料) 資料 6・7)

新	旧																																																																						
(兵庫医科大学大学院学則 (案) 24 ページ～) (兵庫医科大学大学院学則 変更部分の新旧対照表 42 ページ～) (略) (専攻、課程及び定員等) 第 6 条 前条に規定する各研究科の専攻、課程、入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。	(兵庫医科大学大学院学則 (案) 24 ページ～) (兵庫医科大学大学院学則 変更部分の新旧対照表 42 ページ～) (略) (専攻、課程及び定員等) 第 6 条 前条に規定する各研究科の専攻、課程、入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。																																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>研究科名</th> <th>専攻</th> <th>課程</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">医学研究科</td> <td>医科学専攻</td> <td>博士課程</td> <td>40名</td> <td>160名</td> </tr> <tr> <td>先端医学専攻</td> <td>博士課程</td> <td>20名</td> <td>80名</td> </tr> <tr> <td>薬学研究科</td> <td>医療薬学専攻</td> <td>博士課程</td> <td>3名</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">看護学研究科</td> <td rowspan="2">看護学専攻</td> <td>博士前期課程</td> <td>8名</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>博士後期課程</td> <td>2名</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">リハビリテーション科学研究科</td> <td rowspan="2">リハビリテーション科学専攻</td> <td>修士課程</td> <td>8名</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>博士後期課程</td> <td>2名</td> <td>6名</td> </tr> </tbody> </table>	研究科名	専攻	課程	入学定員	収容定員	医学研究科	医科学専攻	博士課程	40名	160名	先端医学専攻	博士課程	20名	80名	薬学研究科	医療薬学専攻	博士課程	3名	12名	看護学研究科	看護学専攻	博士前期課程	8名	16名	博士後期課程	2名	6名	リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻	修士課程	8名	16名	博士後期課程	2名	6名	<table border="1"> <thead> <tr> <th>研究科名</th> <th>専攻</th> <th>課程</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">医学研究科</td> <td>医科学専攻</td> <td>博士課程</td> <td>40名</td> <td>160名</td> </tr> <tr> <td>先端医学専攻</td> <td>博士課程</td> <td>20名</td> <td>80名</td> </tr> <tr> <td>薬学研究科</td> <td>医療薬学専攻</td> <td>博士課程</td> <td>3名</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">看護学研究科</td> <td rowspan="2">看護学専攻</td> <td>修士課程</td> <td>8名</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>博士後期課程</td> <td>2名</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">リハビリテーション科学研究科</td> <td rowspan="2">リハビリテーション科学専攻</td> <td>修士課程</td> <td>8名</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>博士後期課程</td> <td>2名</td> <td>6名</td> </tr> </tbody> </table>	研究科名	専攻	課程	入学定員	収容定員	医学研究科	医科学専攻	博士課程	40名	160名	先端医学専攻	博士課程	20名	80名	薬学研究科	医療薬学専攻	博士課程	3名	12名	看護学研究科	看護学専攻	修士課程	8名	16名	博士後期課程	2名	6名	リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻	修士課程	8名	16名	博士後期課程	2名	6名
研究科名	専攻	課程	入学定員	収容定員																																																																			
医学研究科	医科学専攻	博士課程	40名	160名																																																																			
	先端医学専攻	博士課程	20名	80名																																																																			
薬学研究科	医療薬学専攻	博士課程	3名	12名																																																																			
看護学研究科	看護学専攻	博士前期課程	8名	16名																																																																			
		博士後期課程	2名	6名																																																																			
リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻	修士課程	8名	16名																																																																			
		博士後期課程	2名	6名																																																																			
研究科名	専攻	課程	入学定員	収容定員																																																																			
医学研究科	医科学専攻	博士課程	40名	160名																																																																			
	先端医学専攻	博士課程	20名	80名																																																																			
薬学研究科	医療薬学専攻	博士課程	3名	12名																																																																			
看護学研究科	看護学専攻	修士課程	8名	16名																																																																			
		博士後期課程	2名	6名																																																																			
リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻	修士課程	8名	16名																																																																			
		博士後期課程	2名	6名																																																																			

<p>(課程の目的)</p> <p>第7条 修士課程及び博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。</p> <p>(略)</p> <p>(修業年限及び在学年限)</p> <p>第8条 修士課程及び博士前期課程の標準修業年限は2年とし、在学年限は4年を超えてはならない。</p> <p>(略)</p> <p>(他大学の大学院等の授業科目の履修並びに研究指導)</p> <p>第16条 学長は、指導教授又は研究指導教員が研究指導及び教育上必要と認めたときは、研究科教授会の意見を聴き、他大学の大学院等の授業科目を履修させ、15単位を超えない範囲でこれを所定の単位に充当することができる。</p> <p>② 学長は、前項のほか、必要なときは、他大学の大学院等において研究指導を受けることを認めることができる。ただし、修士課程及び博士前期課程の学生にあつては、研究指導を受けさせる期間は、1年を超えないものとする。</p> <p>(略)</p> <p>(修了要件)</p> <p>第22条 修士課程及び博士前期課程の修了の要件は、当該課程に2年(2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあつては、当該標準修業年限)以上在学し、各研究科において定める所定単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該研究科が行う学位論文審査又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在</p>	<p>(課程の目的)</p> <p>第7条 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。</p> <p>(略)</p> <p>(修業年限及び在学年限)</p> <p>第8条 修士課程の標準修業年限は2年とし、在学年限は4年を超えてはならない。</p> <p>(略)</p> <p>(他大学の大学院等の授業科目の履修並びに研究指導)</p> <p>第16条 学長は、指導教授又は研究指導教員が研究指導及び教育上必要と認めたときは、研究科教授会の意見を聴き、他大学の大学院等の授業科目を履修させ、15単位を超えない範囲でこれを所定の単位に充当することができる。</p> <p>② 学長は、前項のほか、必要なときは、他大学の大学院等において研究指導を受けることを認めることができる。ただし、修士課程の学生にあつては、研究指導を受けさせる期間は、1年を超えないものとする。</p> <p>(略)</p> <p>(修了要件)</p> <p>第22条 修士課程の修了の要件は、当該課程に2年(2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあつては、当該標準修業年限)以上在学し、各研究科において定める所定単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該研究科が行う学位論文審査又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、</p>
---	--

学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、修士課程又は博士前期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(略)

(学位の授与)

第25条 学長は、前条により本学大学院の課程を修了した者には、次の学位を授与する。

研究科名	専攻名	課程	学位
医学研究科	医科学専攻	博士課程	博士(医学)
	先端医学専攻	博士課程	博士(医学)
薬学研究科	医療薬学専攻	博士課程	博士(薬学)
看護学研究科	看護学専攻	博士前期課程	修士(看護学)
		博士後期課程	博士(看護学)
リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻	修士課程	修士(医療科学)
		博士後期課程	博士(リハビリテーション科学)

(略)

(入学資格)

第30条 医学研究科博士課程又は薬学研究科博士課程に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(略)

② 看護学研究科博士前期課程又はリハビリテーション科学研究科修士課程に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。ただし、看護学研究科博士前期課程においては、看護師免許を取得している者とする。

(略)

別表1

単位(円)

研究科名	課程	入学 検定料	入学金	授業料 (年額)	教育 充実費 (年額)	学費 (年額)
医学研究科	博士課程	30,000	100,000	150,000	100,000	250,000
薬学研究科	博士課程	30,000	100,000	400,000	100,000	500,000
看護学研究科	博士前期課程	30,000	100,000	400,000	100,000	500,000
	博士後期課程	30,000	100,000	500,000	100,000	600,000
リハビリテーション科学研究科	修士課程	30,000	100,000	400,000	100,000	500,000
	博士後期課程	30,000	100,000	500,000	100,000	600,000

優れた業績を上げた者については、修士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(略)

(学位の授与)

第25条 学長は、前条により本学大学院の課程を修了した者には、次の学位を授与する。

研究科名	専攻名	課程	学位
医学研究科	医科学専攻	博士課程	博士(医学)
	先端医学専攻	博士課程	博士(医学)
薬学研究科	医療薬学専攻	博士課程	博士(薬学)
看護学研究科	看護学専攻	修士課程	修士(看護学)
		博士後期課程	博士(看護学)
リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻	修士課程	修士(医療科学)
		博士後期課程	博士(リハビリテーション科学)

(略)

(入学資格)

第30条 医学研究科博士課程又は薬学研究科博士課程に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(略)

② 看護学研究科修士課程又はリハビリテーション科学研究科修士課程に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。ただし、看護学研究科修士課程においては、看護師免許を取得している者とする。

(略)

別表1

単位(円)

研究科名	課程	入学 検定料	入学金	授業料 (年額)	教育 充実費 (年額)	学費 (年額)
医学研究科	博士課程	30,000	100,000	150,000	100,000	250,000
薬学研究科	博士課程	30,000	100,000	400,000	100,000	500,000
看護学研究科	修士課程	30,000	100,000	400,000	100,000	500,000
	博士後期課程	30,000	100,000	500,000	100,000	600,000
リハビリテーション科学研究科	修士課程	30,000	100,000	400,000	100,000	500,000
	博士後期課程	30,000	100,000	500,000	100,000	600,000

<p>(変更事項を記載した書類 41 ページ)</p> <p>1. 変更の事由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士後期課程(看護学研究科、リハビリテーション科学研究科)設置に伴う学則の変更 ・博士後期課程(看護学研究科)設置に伴い、基礎となる修士課程を博士前期課程に改編することによる学則の変更 <p>(略)</p> <p>・上記の他、課程の新設・変更による各条項における文言の修正</p>	<p>(変更事項を記載した書類 41 ページ)</p> <p>1. 変更の事由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士後期課程(看護学研究科、リハビリテーション科学研究科)設置に伴う学則の変更 <p>(略)</p> <p>・上記の他、課程の新設による各条項における文言の修正</p>
--	---

(新旧対照表) 設置等の趣旨を記載した書類 (本文)

新	旧
<p>(設置等の趣旨 (本文) 7 ページ～)</p> <p>1. 設置の趣旨及び必要性</p> <p>(2) 教育環境の整備</p> <p>(略)</p> <p>今回、これまでの実績を踏まえ、社会の医療課題に変革をもたらすことができる人材の育成を目指し、質の高い充実した大学院教育として、博士後期課程を設置しようとするものである。なお、博士後期課程の設置に併せ修士課程を博士前期課程とし、博士前期課程2年、博士後期課程3年の区分制博士課程として再組織する。</p> <p>2. 博士後期課程の位置づけ</p> <p>(1) 位置づけ</p> <p>(略)</p> <p>本学が設置する看護学研究科博士後期課程は、修士課程(博士前期課程)で身に付ける…を目指している。</p> <p>(2) 養成する人材像(修士課程(博士前期課程)及び博士後期課程の目的と教育目標)</p> <p>1) 看護学研究科修士課程(博士前期課程)の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシー</p> <p>3. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称・定員</p> <p>(1) 研究科の名称と専攻の名称</p>	<p>(設置等の趣旨 (本文) 7 ページ～)</p> <p>1. 設置の趣旨及び必要性</p> <p>(2) 教育環境の整備</p> <p>(略)</p> <p>今回、これまでの実績を踏まえ、社会の医療課題に変革をもたらすことができる人材の育成を目指し、質の高い充実した大学院教育として、博士後期課程を設置しようとするものである。</p> <p>2. 博士後期課程の位置づけ</p> <p>(1) 位置づけ</p> <p>(略)</p> <p>本学が設置する看護学研究科博士後期課程は、修士課程で身に付ける…を目指している。</p> <p>(2) 養成する人材像(修士課程及び博士後期課程の目的と教育目標)</p> <p>1) 看護学研究科修士課程の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシー</p> <p>3. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称・定員</p>

<p>兵庫医科大学大学院看護学研究科 (Hyogo Medical University, Graduate School of Nursing) は、看護学部看護学科 (Faculty of Nursing, Department of Nursing) の上に構築される教育課程である。現在の看護学研究科修士課程 (博士前期課程) (Graduate School of Nursing, Master's Program in Nursing) においては…設置している。</p> <p>(2) 学位の名称及び英語名称 修士課程 (博士前期課程) の学位: 修士 (看護学) 英語名称: Master of Nursing</p> <p>(3) 修業年限、入学定員及び収容定員 修士課程 (博士前期課程): 修業年限 2 年、入学定員 8 名 (収容定員 16 名)</p> <p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色 (3) 教育課程の編成方針、概要及び特色 博士後期課程は、ディプロマ・ポリシーを達成できるよう、修士課程 (博士前期課程) における教育を基盤として、教育課程の編成方針を以下のように定める。</p> <p>3) 各科目の授業科目の概要と特色 ■基礎科目 (略) ア)「看護科学研究論」 修士課程 (博士前期課程) で修得した研究の基礎的能力をふまえ、…修得する。 (略) エ)「看護システム開発学」 (略) また、効果及び効率的に看護システムを変革していくために、修士課程 (博士前期課程) での看護管理論や看護政策論、倫理学の知識及び、国内、国際的な情勢を踏まえ、…検討する。 (略)</p> <p>6. 基礎となる修士課程 (博士前期課程) との関係 (1) 看護学研究科修士課程 (博士前期課程) の特色 (略) これまでの修士課程 (博士前期課程) の入学者は…還元している。 (略)</p>	<p>(1) 研究科の名称と専攻の名称 兵庫医科大学大学院看護学研究科 (Hyogo Medical University, Graduate School of Nursing) は、看護学部看護学科 (Faculty of Nursing, Department of Nursing) の上に構築される教育課程である。現在の看護学研究科修士課程 (Graduate School of Nursing, Master's Program in Nursing) においては…設置している。</p> <p>(2) 学位の名称及び英語名称 修士課程の学位: 修士 (看護学) 英語名称: Master of Nursing</p> <p>(3) 修業年限、入学定員及び収容定員 修士課程: 修業年限 2 年、入学定員 8 名 (収容定員 16 名)</p> <p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色 (3) 教育課程の編成方針、概要及び特色 博士後期課程は、ディプロマ・ポリシーを達成できるよう、修士課程における教育を基盤として、教育課程の編成方針を以下のように定める。</p> <p>3) 各科目の授業科目の概要と特色 ■基礎科目 (略) ア)「看護科学研究論」 修士課程で修得した研究の基礎的能力をふまえ、…修得する。 (略) エ)「看護システム開発学」 (略) また、効果及び効率的に看護システムを変革していくために、修士課程での看護管理論や看護政策論、倫理学の知識及び、国内、国際的な情勢を踏まえ、…検討する。 (略)</p> <p>6. 基礎となる修士課程との関係 (1) 看護学研究科修士課程の特色 (略) これまでの修士課程の入学者は…還元している。</p>
---	--

(2) 看護学研究科修士課程(博士前期課程)との関係

看護学研究科修士課程(博士前期課程)で修得した、看護現象を科学的に解明する教育・研究能力を基盤として、看護学研究科博士後期課程では更にそれらを発展させ、看護学実践の実装、変革、及び看護ケアの創生・発信に資する能力を有した実践者、教育者、研究者の育成を見据えた教育課程としている。修士課程(博士前期課程)を経た看護実践者や教育者・研究者が医療・介護施設やコミュニティにおける看護・教育実践の中で感じている課題について、変革すべき課題として明確化させ、研究成果を実装化し解決策を探究する能力を育成することを目指す。なお、本学以外の修士課程(博士前期課程)を経た者で、看護学研究科博士後期課程の履修を行うにあたり必要であると判断した場合は、看護学研究科修士課程(博士前期課程)の科目を聴講することができることとする。

【資料 10】兵庫医科大学修士課程(博士前期課程)科目と博士後期課程科目の連関図

7. 多様なメディアを高度に利用して授業を教室以外の場所で履修させる場合

(略)

本学においては、…学部並びに修士課程(博士前期課程)の教育を展開してきている。

(略)

8. 「大学院設置基準」第14条による教育方法の実施

(略)

第14条特例の適用による教員負担の増加対応として、一定の教員への負担の偏りを避けるため、学部、大学院修士課程(博士前期課程)及び博士後期課程で担当する科目と時間数を考慮し、適正な負担配分を検討・実施することとする。

9. 入学者選抜の概要

(1) 入学者受け入れの基本指針(アドミッション・ポリシー)

看護学研究科博士後期課程は、修士課程(博士前期課程)における教育を基盤とし

(略)

(2) 看護学研究科修士課程との関係

看護学研究科修士課程で修得した、看護現象を科学的に解明する教育・研究能力を基盤として、看護学研究科博士後期課程では更にそれらを発展させ、看護学実践の実装、変革、及び看護ケアの創生・発信に資する能力を有した実践者、教育者、研究者の育成を見据えた教育課程としている。修士課程を経た看護実践者や教育者・研究者が医療・介護施設やコミュニティにおける看護・教育実践の中で感じている課題について、変革すべき課題として明確化させ、研究成果を実装化し解決策を探究する能力を育成することを目指す。なお、本学以外の修士課程を経た者で、看護学研究科博士後期課程の履修を行うにあたり必要であると判断した場合は、看護学研究科修士課程の科目を聴講することができることとする。

【資料 10】兵庫医科大学修士課程科目と博士後期課程科目の連関図

7. 多様なメディアを高度に利用して授業を教室以外の場所で履修させる場合

(略)

本学においては、…学部並びに修士課程の教育を展開してきている。

(略)

8. 「大学院設置基準」第14条による教育方法の実施

(略)

第14条特例の適用による教員負担の増加対応として、一定の教員への負担の偏りを避けるため、学部、大学院修士課程及び博士後期課程で担当する科目と時間数を考慮し、適正な負担配分を検討・実施することとする。

9. 入学者選抜の概要

(1) 入学者受け入れの基本指針(アドミッション・ポリシー)

看護学研究科博士後期課程は、修士課程に

<p>て、…目指している。 (略)</p> <p>10. 教育研究実施組織等の編成の考え方及び特色 (2) 教員組織の特色 看護学研究科博士後期課程の専任教員は、全員が本学看護学部並びに看護学研究科修士課程(博士前期課程)を兼務するため、学士課程・修士課程(博士前期課程)・博士後期課程に渡る看護学教育を俯瞰できる環境にある。 (略) なお、博士後期課程を担当する教員に関しては、看護学研究科長は修士課程(博士前期課程)、学士課程、及びその他の大学運営に係る業務が教育・研究指導に支障をきたさないよう配慮・調整する。 (略)</p> <p>11. 研究の実施についての考え方、体制、取り組み (2) URAによる研究支援体制 (略) 博士後期課程の研究支援においても、修士課程(博士前期課程)での研究支援と同様に、URAによる研究サポートを提供することとしており、円滑な研究活動が実施できる支援体制を有している。 (略)</p> <p>(3) 倫理審査体制 (略) 博士後期課程の学生の研究においても、修士課程(博士前期課程)と同様に、…倫理審査を受けるものとする。 (略)</p>	<p>おける教育を基盤として、…目指している。 (略)</p> <p>10. 教育研究実施組織等の編成の考え方及び特色 (2) 教員組織の特色 看護学研究科博士後期課程の専任教員は、全員が本学看護学部並びに看護学研究科修士課程を兼務するため、学士課程・修士課程・博士後期課程に渡る看護学教育を俯瞰できる環境にある。 (略) なお、博士後期課程を担当する教員に関しては、看護学研究科長は修士課程、学士課程、及びその他の大学運営に係る業務が教育・研究指導に支障をきたさないよう配慮・調整する。 (略)</p> <p>11. 研究の実施についての考え方、体制、取り組み (2) URAによる研究支援体制 (略) 博士後期課程の研究支援においても、修士課程での研究支援と同様に、URAによる研究サポートを提供することとしており、円滑な研究活動が実施できる支援体制を有している (略)</p> <p>(3) 倫理審査体制 (略) 博士後期課程の学生の研究においても、修士課程と同様に、…倫理審査を受けるものとする。 (略)</p>
---	--

(新旧対照表) 設置等の趣旨を記載した書類 (資料) (審査意見 (資料) 6、8～14)

新	旧
(設置等の趣旨 (資料) 5 ページ～)	(設置等の趣旨等 (資料) 5 ページ～)
資料2 兵庫医科大学大学院学則 (案)	資料2 兵庫医科大学大学院学則 (案)
(略)	(略)

(専攻、課程及び定員等)

第6条 前条に規定する各研究科の専攻、課程、入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

研究科名	専攻	課程	入学定員	収容定員
医学研究科	医科学専攻	博士課程	40名	160名
	先端医学専攻	博士課程	20名	80名
薬学研究科	医療薬学専攻	博士課程	3名	12名
看護学研究科	看護学専攻	博士前期課程	8名	16名
		博士後期課程	2名	6名
リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻	修士課程	8名	16名
		博士後期課程	2名	6名

(課程の目的)

第7条 修士課程及び博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

(略)

(修業年限及び在学年限)

第8条 修士課程及び博士前期課程の標準修業年限は2年とし、在学年限は4年を超えてはならない。

(略)

(他大学の大学院等の授業科目の履修並びに研究指導)

第16条 学長は、指導教授又は研究指導教員が研究指導及び教育上必要と認めるときは、研究科教授会の意見を聴き、他大学の大学院等の授業科目を履修させ、15単位を超えない範囲でこれを所定の単位に充当することができる。

② 学長は、前項のほか、必要ときは、他大学の大学院等において研究指導を受けることを認めることができる。ただし、修士課程及び博士前期課程の学生にあっては、研究指導を受けさせる期間は、1年を超えないものとする。

(専攻、課程及び定員等)

第6条 前条に規定する各研究科の専攻、課程、入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

研究科名	専攻	課程	入学定員	収容定員
医学研究科	医科学専攻	博士課程	40名	160名
	先端医学専攻	博士課程	20名	80名
薬学研究科	医療薬学専攻	博士課程	3名	12名
看護学研究科	看護学専攻	修士課程	8名	16名
		博士後期課程	2名	6名
リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻	修士課程	8名	16名
		博士後期課程	2名	6名

(課程の目的)

第7条 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

(略)

(修業年限及び在学年限)

第8条 修士課程の標準修業年限は2年とし、在学年限は4年を超えてはならない。

(略)

(他大学の大学院等の授業科目の履修並びに研究指導)

第16条 学長は、指導教授又は研究指導教員が研究指導及び教育上必要と認めるときは、研究科教授会の意見を聴き、他大学の大学院等の授業科目を履修させ、15単位を超えない範囲でこれを所定の単位に充当することができる。

② 学長は、前項のほか、必要ときは、他大学の大学院等において研究指導を受けることを認めることができる。ただし、修士課程の学生にあっては、研究指導を受けさせる期間は、1年を超えないものとする。

(略)

(修了要件)

第22条 修士課程及び博士前期課程の修了の要件は、当該課程に2年(2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあつては、当該標準修業年限)以上在学し、各研究科において定める所定単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該研究科が行う学位論文審査又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、修士課程又は博士前期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(略)

(学位の授与)

第25条 学長は、前条により本学大学院の課程を修了した者には、次の学位を授与する

研究科名	専攻名	課程	学位
医学研究科	医科学専攻	博士課程	博士(医学)
	先端医学専攻	博士課程	博士(医学)
薬学研究科	医療薬学専攻	博士課程	博士(薬学)
看護学研究科	看護学専攻	博士前期課程	修士(看護学)
		博士後期課程	博士(看護学)
リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻	修士課程	修士(医療科学)
		博士後期課程	博士(リハビリテーション科学)

(略)

(入学資格)

第30条 医学研究科博士課程又は薬学研究科博士課程に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(略)

② 看護学研究科博士前期課程又はリハビリテーション科学研究科修士課程に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。ただし、看護学研究科博士前期課程においては、看護師免許を取得

(略)

(修了要件)

第22条 修士課程の修了の要件は、当該課程に2年(2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあつては、当該標準修業年限)以上在学し、各研究科において定める所定単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該研究科が行う学位論文審査又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、修士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(略)

(学位の授与)

第25条 学長は、前条により本学大学院の課程を修了した者には、次の学位を授与する

研究科名	専攻名	課程	学位
医学研究科	医科学専攻	博士課程	博士(医学)
	先端医学専攻	博士課程	博士(医学)
薬学研究科	医療薬学専攻	博士課程	博士(薬学)
看護学研究科	看護学専攻	修士課程	修士(看護学)
		博士後期課程	博士(看護学)
リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻	修士課程	修士(医療科学)
		博士後期課程	博士(リハビリテーション科学)

(略)

(入学資格)

第30条 医学研究科博士課程又は薬学研究科博士課程に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(略)

② 看護学研究科修士課程又はリハビリテーション科学研究科修士課程に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。ただし、看護学研究科修士課程においては、看護師免許を取得している

している者とする。

(略)

別表 1

単位 (円)

研究科名	課程	入学 検定料	入学金	授業料 (年額)	教育 充実費 (年額)	学費 (年額)
医学研究科	博士課程	30,000	100,000	150,000	100,000	250,000
薬学研究科	博士課程	30,000	100,000	400,000	100,000	500,000
看護学研究科	博士前期課程	30,000	100,000	400,000	100,000	500,000
	博士後期課程	30,000	100,000	500,000	100,000	600,000
リハビリテーション科学 研究科	修士課程	30,000	100,000	400,000	100,000	500,000
	博士後期課程	30,000	100,000	500,000	100,000	600,000

(設置等の趣旨等 (資料) 22 ページ～)

資料 3 兵庫医科大学学位規程 (案)

(略)

(学位授与の要件)

第 3 条 本学において授与する学位は学士、修士及び博士とする。

② 学士の学位は、学士課程を修了した者に授与する。

③ 修士の学位は、大学院修士課程及び博士前期課程を修了した者に授与する。

④ 博士の学位は、大学院博士課程及び博士後期課程を修了した者に授与する。なお、医学研究科における課程を経ない者の学位の授与は、第 1 2 条に定める。

(略)

(審査料)

第 2 3 条 修士課程及び博士前期課程、博士課程及び博士後期課程の学位論文審査料は免除、医学研究科の課程を経ない者による学位論文審査料は、20 万円とする。

(略)

者とする。

(略)

別表 1

単位 (円)

研究科名	課程	入学 検定料	入学金	授業料 (年額)	教育 充実費 (年額)	学費 (年額)
医学研究科	博士課程	30,000	100,000	150,000	100,000	250,000
薬学研究科	博士課程	30,000	100,000	400,000	100,000	500,000
看護学研究科	修士課程	30,000	100,000	400,000	100,000	500,000
	博士後期課程	30,000	100,000	500,000	100,000	600,000
リハビリテーション科学 研究科	修士課程	30,000	100,000	400,000	100,000	500,000
	博士後期課程	30,000	100,000	500,000	100,000	600,000

(設置等の趣旨 (資料) 22 ページ～)

資料 3 兵庫医科大学学位規程 (案)

(略)

(学位授与の要件)

第 3 条 本学において授与する学位は学士、修士及び博士とする。

② 学士の学位は、学士課程を修了した者に授与する。

③ 修士の学位は、大学院修士課程を修了した者に授与する。

④ 博士の学位は、大学院博士課程及び博士後期課程を修了した者に授与する。なお、医学研究科における課程を経ない者の学位の授与は、第 1 2 条に定める。

(略)

(審査料)

第 2 3 条 修士課程、博士課程及び博士後期課程の学位論文審査料は免除、医学研究科の課程を経ない者による学位論文審査料は、20 万円とする。

(略)

別表 (学位の名称及び付記する分野の名称)

(2) 修士の学位
(看護学研究科：博士前期課程)
(リハビリテーション科学研究科：修士課程)

研究科	専攻	学位
看護学研究科	看護学専攻	修士(看護学)
リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻	修士(医療科学)

(略)

別表様式 (学位記)

【看護学研究科 博士前期課程】
【リハビリテーション科学研究科 修士課程】

第 号
学 位 記
氏 名 年 月 日生
本学大学院〇〇研究科〇〇専攻の〇〇課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したので修士(〇〇学)の学位を授与する。
年 月 日 兵庫医科大学長 印

別表 (学位の名称及び付記する分野の名称)

(2) 修士の学位 (修士課程)

研究科	専攻	学位
看護学研究科	看護学専攻	修士(看護学)
リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻	修士(医療科学)

(略)

別表様式 (学位記)

【看護学研究科・リハビリテーション科学研究科 修士課程】

第 号
学 位 記
氏 名 年 月 日生
本学大学院〇〇研究科〇〇専攻の修士課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したので修士(〇〇学)の学位を授与する。
年 月 日 兵庫医科大学長 印

(設置等の趣旨 (資料) 31 ページ～)

資料 4 兵庫医科大学大学院看護学研究科履修規程 (案)

(略)

(博士前期課程の修了要件)

第 6 条 看護学基礎研究領域においては 3 2 単位以上、看護学課題研究・高度実践領域においては 4 2 単位以上の単位修得並びに学位論文又は課題研究報告書の審査及び最終試験に合格することを要件とする。

② 博士前期課程の修了に必要な単位の内訳は、次のとおりとする。なお、科目及び科目毎の単位数については、別に定める。

(設置等の趣旨 (資料) 31 ページ～)

資料 4 兵庫医科大学大学院看護学研究科履修規程 (案)

(略)

(修士課程の修了要件)

第 6 条 看護学基礎研究領域においては 3 2 単位以上、看護学課題研究・高度実践領域においては 4 2 単位以上の単位修得並びに学位論文又は課題研究報告書の審査及び最終試験に合格することを要件とする。

② 修士課程の修了に必要な単位の内訳は、次のとおりとする。なお、科目及び科目毎の単位数については、別に定める。

看護学研究科 博士前期課程 履修単位

科目	看護学基礎研究領域	看護学課題研究・高度実践領域
共通科目（修士・博士前期課程）	2単位以上	2単位以上
看護学共通科目A	4単位以上	8単位以上
看護学共通科目B		6単位
看護学専門分野専門科目	10単位以上	14単位以上
看護学実習科目		10単位
特別研究	10単位	
課題研究		2単位

看護学研究科 修士課程 履修単位

科目	看護学基礎研究領域	看護学課題研究・高度実践領域
共通科目(修士課程)	2単位以上	2単位以上
看護学共通科目A	4単位以上	8単位以上
看護学共通科目B		6単位
看護学専門分野専門科目	10単位以上	14単位以上
看護学実習科目		10単位
特別研究	10単位	
課題研究		2単位

(設置等の趣旨 (資料) 34 ページ～)

資料5 兵庫医科大学大学院長期履修規程 (案)

(略)
(申請資格)

第2条 長期履修生として申請できる者は、本条第3項に定める研究科が行う入学試験に合格した者（以下「入学予定者」という。）で次に該当する者とする。

(略)

③ 長期履修生を受け入れる本学大学院の研究科は、次の各号に定める研究科の修士課程及び博士前期課程、博士課程及び博士後期課程とする。

- 1 薬学研究科
- 2 看護学研究科
- 3 リハビリテーション科学研究科

(略)

(長期履修期間及び在学年限)

第3条 長期履修生として標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを認められる期間（以下「長期履修期間」という。）は年度単位とし、次に掲げるとおりとする。

- 1 看護学研究科の博士前期課程及びリ

(設置等の趣旨 (資料) 34 ページ～)

資料5 兵庫医科大学大学院長期履修規程 (案)

(略)
(申請資格)

第2条 長期履修生として申請できる者は、本条第3項に定める研究科が行う入学試験に合格した者（以下「入学予定者」という。）で次に該当する者とする。

(略)

③ 長期履修生を受け入れる本学大学院の研究科は、次の各号に定める研究科の修士課程、博士課程及び博士後期課程とする。

- 1 薬学研究科
- 2 看護学研究科
- 3 リハビリテーション科学研究科

(略)

(長期履修期間及び在学年限)

第3条 長期履修生として標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを認められる期間（以下「長期履修期間」という。）は年度単位とし、次に掲げるとおりとする。

- 1 看護学研究科及びリハビリテーショ

<p>ハビリテーション科学研究科の修士課程は4年以内</p> <p>(略)</p> <p>別表1 長期履修生授業料等一覧 【看護学研究科・リハビリテーション科学研究科】 博士前期課程・修士課程 (略)</p>	<p>ン科学研究科の修士課程は4年以内</p> <p>(略)</p> <p>別表1 長期履修生授業料等一覧 【看護学研究科・リハビリテーション科学研究科】 修士課程 (略)</p>
<p>(設置等の趣旨(資料)40ページ～)</p> <p>資料6 兵庫医科大学大学院看護学研究科研究指導に関する申し合わせ</p> <p>(略)</p> <p>(博士前期課程の研究指導時における主指導教員および副指導教員) 第2条 主指導教員は、学生の研究指導の責任者として、学生ごとに定める。 (略)</p> <p>附 則 この改正は、2025年4月1日から施行する。</p>	<p>(設置等の趣旨(資料)40ページ～)</p> <p>資料6 兵庫医科大学大学院看護学研究科研究指導に関する申し合わせ</p> <p>(略)</p> <p>(修士課程の研究指導時における主指導教員および副指導教員) 第2条 主指導教員は、学生の研究指導の責任者として、学生ごとに定める。 (略)</p> <p>(記載なし)</p>
<p>(設置等の趣旨(資料)44ページ～)</p> <p>資料8 兵庫医科大学大学院看護学研究科早期修了に関する規程(案)</p> <p>(略)</p> <p>(博士前期課程の早期修了要件) 第2条 早期修了を希望する博士前期課程の大学院生は、次に挙げる第1号から第5号の要件を満たしていなければならない。 1 博士前期課程に1年以上在学し、研究科共通科目、看護学共通科目、「特別研究」以外の看護学専門科目の単位を修得して</p>	<p>(設置等の趣旨(資料)45ページ～)</p> <p>資料8 兵庫医科大学大学院看護学研究科早期修了に関する規程(案)</p> <p>(略)</p> <p>(修士課程の早期修了要件) 第2条 早期修了を希望する修士課程の大学院生は、次に挙げる第1号から第5号の要件を満たしていなければならない。 1 修士課程に1年以上在学し、研究科共通科目、看護学共通科目、「特別研究」以外の看護学専門科目の単位を修得してい</p>

いること。
(略)

(設置等の趣旨 (資料) 46 ページ～)

資料9 兵庫医科大学大学院看護学研究科学位論文審査基準

(略)

(博士前期課程の学位論文審査基準)
第2条 博士前期課程における学位論文審査基準を次のとおり定め、審査は総合的に判断して行う。

(略)

附 則
この改正は、2025 年 4 月 1 日から施行する。

ること。
(略)

(設置等の趣旨 (資料) 47 ページ～)

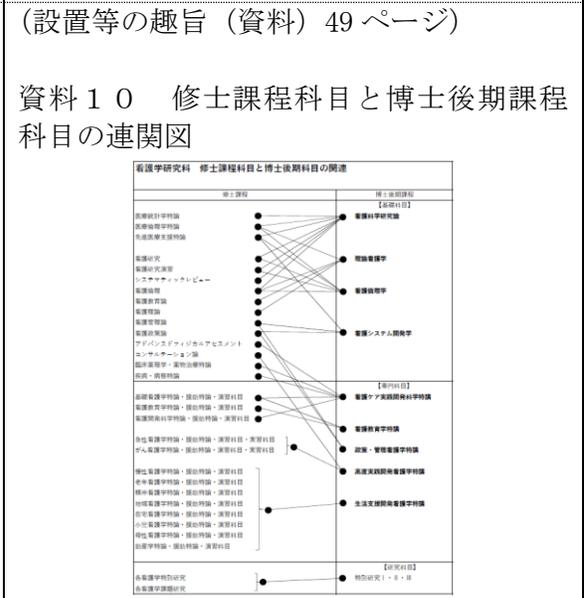
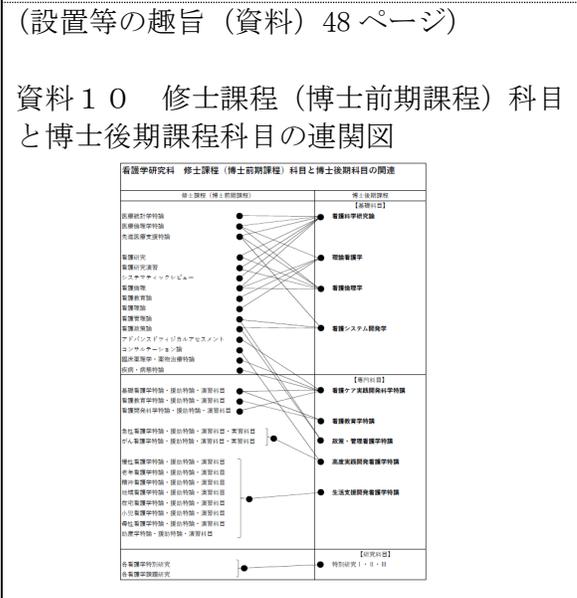
資料9 兵庫医科大学大学院看護学研究科学位論文審査基準

(略)

(修士課程の学位論文審査基準)
第2条 修士課程における学位論文審査基準を次のとおり定め、審査は総合的に判断して行う。

(略)

(記載なし)



(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 (本文)

新	旧
<p>(学生確保 (本文) 3 ページ)</p> <p>(略)</p> <p>②新組織の特色</p> <p>(略)</p> <p>(3)博士後期課程を担当する専任教員は、全員が本学看護学部並びに修士課程(博士前期課程)を兼務するため、修士課程(博士前期課程)・博士後期課程に渡る看護学教育を俯瞰できるようにしている。</p> <p>(略)</p> <p>(2)看護学研究科修士課程(博士前期課程)の取組みとその目標 看護学研究科修士課程(博士前期課程)では、入学定員 8 人の入学を目標に、ホームページ、DM、メールでの情報発信、オープンキャンパス等での個別相談を中心に行っている。</p> <p>(略)</p> <p>(3)看護学部、看護学研究科修士課程(博士前期課程)の学生確保に関する目標 看護学部は、従前の学生募集活動を継続し、入学定員充足率を維持すること目標とする。 看護学研究科修士課程(博士前期課程)は、既存の学生募集を継続しつつ、ホームページでの情報発信を強化し、毎年継続的に志願者数が入学定員以上確保することを目標とする。</p> <p>(イ)新設組織における取組とその目標 看護学研究科博士後期課程では、入学定員 2人の入学を確保するために、修士課程(博士前期課程)で実施した各種施策を博士後期課程でも展開する。</p>	<p>(学生確保 (本文) 3 ページ～)</p> <p>(略)</p> <p>②新組織の特色</p> <p>(略)</p> <p>(3)修士課程を担当する専任教員は、全員が本学看護学部並びに修士課程を兼務するため、学士課程・修士課程・博士後期課程に渡る看護学教育を俯瞰できるようにしている。</p> <p>(略)</p> <p>(2)看護学研究科修士課程の取組みとその目標 看護学研究科修士課程では、入学定員 8 人の入学を目標に、ホームページ、DM、メールでの情報発信、オープンキャンパス等での個別相談を中心に行っている。</p> <p>(略)</p> <p>(3)看護学部、看護学研究科修士課程の学生確保に関する目標 看護学部は、従前の学生募集活動を継続し、入学定員充足率を維持すること目標とする。 看護学研究科修士課程は、既存の学生募集を継続しつつ、ホームページでの情報発信を強化し、毎年継続的に志願者数が入学定員以上確保することを目標とする。</p> <p>(イ)新設組織における取組とその目標 看護学研究科博士後期課程では、入学定員 2人の入学を確保するために、修士課程で実施した各種施策を博士後期課程でも展開する。</p>

(略)

⑤ホームカミングデイ対応

・本学の看護学部卒業生に対しては、ホームカミングデイを毎年 10 月に開催しており、その際に修士課程(博士前期課程)と博士後期課程の教育課程、学修内容等を周知する。ホームカミングデイに参加できない卒業生に対しては、同窓会の協力を得て実施内容を伝える。

(略)

■採用意向に関するアンケート調査の結果

本学の博士後期課程による人材育成は必要であり、課程を修了した人材については、4 割程度の施設が採用したいとし、病院・診療所、大学、専門学校で毎年一定程度の採用が可能であると回答している。

本学の看護学研究科修士課程(博士前期課程)の在籍者は、看護職員として勤務しながら修士課程を修了していることから、今後、博士後期課程に入学する方も同様に仕事と就学を両立させ、修了後も多くは、勤務先で勤務を継続すると推測している。

(略)

⑤ホームカミングデイ対応

・本学の看護学部卒業生に対しては、ホームカミングデイを毎年 10 月に開催しており、その際に修士課程と博士後期課程の教育課程、学修内容等を周知する。ホームカミングデイに参加できない卒業生に対しては、同窓会の協力を得て実施内容を伝える。

(略)

■採用意向に関するアンケート調査の結果

本学の博士後期課程による人材育成は必要であり、課程を修了した人材については、4 割程度の施設が採用したいとし、病院・診療所、大学、専門学校で毎年一定程度の採用が可能であると回答している。

本学の看護学研究科修士課程の在籍者は、看護職員として勤務しながら修士課程を修了していることから、今後、博士後期課程に入学する方も同様に仕事と就学を両立させ、修了後も多くは、勤務先で勤務を継続すると推測している。

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類(資料) (審査意見(資料) 資料15)

新		旧	
(学生確保(資料) 48 ページ)		(学生確保(資料) 48 ページ)	
別紙2 既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績		別紙2 既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績	
①募集を行った学科等名称及び取組の名称:兵庫医科大学 看護学部【オープンキャンパス】			
		取組概要と入学者数等に関する分析	
参加者等総数(a)	825人	1386人	1.取組概要 83年度:3月※、6月※、8月、9月※、12月※ 84年度:1月※、3月、6月、8月、12月※ ※は既印刷欄
うち受験対象者数(b)	542人	738人	看護学部 受験者数 入学者数 83年度:1,641人(283人、17.2%) 109人(74人、67.9%) 84年度:1,167人(346人、29.6%) 121人(91人、75.2%) ():実受験者、入学者のうち、オープンキャンパス参加者が占める割合
うち受験者数(c)	283人	346人	2.過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 新設組織は博士後期課程であり、学部のオープンキャンパスから博士後期課程の入学者数の見込み分析は困難であるが、オープンキャンパスの参加者が実際に受験する率は50%前後で入学率は10%を越えている。また、上記に示すように受験者数全体のオープンキャンパス参加者の占める割合は20%前後～30%前後であるが、入学者が占める割合は、70%前後と非常に高く、オープンキャンパスの参加者は入学への意欲が非常に高いことが伺える。 今後の卒業生オープンキャンパスでは、修士課程(博士前期課程)、博士後期課程の設置を 周知し、将来の受験者確保につなげる機会とした。
うち入学者数(d)	74人	91人	
(受験率 c/b)	52%	47%	
(入学率 d/b)	14%	12%	
①募集を行った学科等名称及び取組の名称:兵庫医科大学 看護学部【オープンキャンパス】			
		取組概要と入学者数等に関する分析	
参加者等総数(a)	825人	1386人	1.取組概要 83年度:3月※、6月※、8月、9月※、12月※ 84年度:1月※、3月、6月、8月、12月※ ※は既印刷欄
うち受験対象者数(b)	542人	738人	看護学部 受験者数 入学者数 83年度:1,641人(283人、17.2%) 109人(74人、67.9%) 84年度:1,167人(346人、29.6%) 121人(91人、75.2%) ():実受験者、入学者のうち、オープンキャンパス参加者が占める割合
うち受験者数(c)	283人	346人	2.過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 新設組織は博士後期課程であり、学部のオープンキャンパスから博士後期課程の入学者数の見込み分析は困難であるが、オープンキャンパスの参加者が実際に受験する率は50%前後で入学率は10%を越えている。また、上記に示すように受験者数全体のオープンキャンパス参加者の占める割合は20%前後～30%前後であるが、入学者が占める割合は、70%前後と非常に高く、オープンキャンパスの参加者は入学への意欲が非常に高いことが伺える。 今後の卒業生オープンキャンパスでは、修士課程(博士前期課程)、博士後期課程の設置を 周知し、将来の受験者確保につなげる機会とした。
うち入学者数(d)	74人	91人	
(受験率 c/b)	52%	47%	
(入学率 d/b)	14%	12%	

(その他) 看護学研究科 看護学専攻 (D)

<p>【審査意見以外への対応事項】 5. 誤記や不備に伴う修正</p>

(変更理由)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

◀審査意見(以外)への対応を記載した書類(資料)▶

(資料1) 授業科目の概要

(資料2) 博士後期課程 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、授業科目、アドミッション・ポリシー関係図

(資料4) シラバス

(新旧対照表) 基本計画書 授業科目の概要 (審査意見(資料)資料1)

新	旧
<p>(授業科目の概要 19 ページ) 「看護ケア実践開発科学特講」</p> <p>■授業科目の概要</p> <p>(略)</p> <p>第1回・2回：土田 グローバルな視点から看護の知の構造における歴史的変遷と理論的基盤について学修する。</p> <p>(略)</p>	<p>(授業科目の概要 17 ページ) 「看護ケア実践開発科学特講」</p> <p>■授業科目の概要</p> <p>(略)</p> <p>第1～2回：土田 看護の知の構造における歴史的変遷と理論的基盤について学修する。</p> <p>(略)</p>
<p>(授業科目の概要 20 ページ) 「看護教育学特講」</p> <p>■授業科目の概要</p> <p>(略)</p> <p>第1回・2回：前川 教育 - 学習における歴史的変遷と理論的哲学的基盤について学修する。</p> <p>(略)</p>	<p>(授業科目の概要 18 ページ) 「看護教育学特講」</p> <p>■授業科目の概要</p> <p>(略)</p> <p>第1～2回：前川 教育 - 学習における歴史的変遷と理論的哲学的基盤について学修する。</p> <p>(略)</p>

<p>(授業科目の概要 21 ページ)</p> <p>「政策・管理看護学特講」</p> <p>■授業科目の目的</p> <p>質の高い看護サービスの提供を可能とする組織とシステムのあり方について、個々の医療機関レベルから国内外の政策レベルに至る全体を俯瞰の上で検討した上で、変革を要する課題とその研究論を追究する</p>	<p>(授業科目の概要 19 ページ)</p> <p>「政策・管理看護学特講」</p> <p>■授業科目の目的</p> <p>看護サービスを保証する組織とシステムのあり方を個別医療機関の経営管理から地方公共団体や国家レベルの政策課程に至る全体を俯瞰しながら検討し、具体的な変革プランの開発に資する研究を追究する</p>
<p>(授業科目の概要 22 ページ)</p> <p>「高度実践開発看護学特講」</p> <p>■授業科目の目的 (略)</p> <p>その上で、広く国内外の看護実践について吟味し、専門分野を含む学際的な視点に基づいた新たな看護実践の概念枠組み及びケアの質を向上し、広く実装するための教育力を高める。以上のような看護の適用に貢献できる研究テーマと研究方法を検討することで、新たな看護学の知見を臨床で実装し、広く共有するための教育力を養う。</p> <p>■授業科目の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度実践開発看護学における理論・概念、研究の動向について文献レビューを行う。 ・クリティカルケア、周手術期ケアなど治療期にある患者の療養生活の課題について明らかにする。 ・治療期から終末期までの意思決定に関わる諸課題を明らかにする。 ・高度な看護実践を臨床現場に適応するための方略を構築する教育力を養う。 ・高度実践開発看護学における関心あるテーマについて課題を明確にする。 <p>(略)</p>	<p>(授業科目の概要 20 ページ)</p> <p>「高度実践開発看護学特講」</p> <p>■授業科目の目的 (略)</p> <p>その上で、広く国内外の看護実践について吟味し、専門分野での新たな看護実践の概念枠組み及びケアの質の向上に貢献する研究テーマと研究方法を検討する。</p> <p>■授業科目の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> ①高度実践開発看護学における理論・概念、研究の動向について文献レビューを行う。 ②クリティカルケア、周手術期ケアなど治療期にある患者の療養生活の課題について明らかにする。 ③治療期から終末期までの意思決定に関わる諸課題を明らかにする。 ④高度実践開発看護学における関心あるテーマについて課題を明確にする。 <p>(略)</p>

(新旧対照表) シラバス (審査意見 (資料) 資料 4)

新	旧
<p>(シラバス 10 ページ) 「看護ケア実践開発科学特講」</p> <p>[到達目標]</p> <p>①看護学領域や周辺学問領域の諸理論に基づき、看護技術と看護ケアのエビデンスの開発における国内外の課題、その背景や影響する要因について分析できる。 (略)</p>	<p>(シラバス 10 ページ) 「看護ケア実践開発科学特講」</p> <p>[到達目標]</p> <p>①看護学領域や周辺学問領域の諸理論に基づき、看護技術と看護ケアのエビデンスの開発における課題の背景や影響する要因について分析できる。 (略)</p>
<p>(シラバス 15 ページ) 「高度実践開発看護学特講」</p> <p>[授業科目の目的] (略)</p> <p>その上で、広く国内外の看護実践について吟味し、専門分野を含む学際的な視点に基づいた新たな看護実践の概念枠組み及びケアの質を向上し、広く実装するための教育力を高める。以上のような看護の適用に貢献できる研究テーマと研究方法を検討することで、新たな看護学の知見を臨床で実装し、広く共有するための教育力を養う。</p> <p>[授業の概要] (略)</p> <p>・クリティカルケア、周手術期ケアなど治療期にある患者の療養生活の課題について明らかにする。 (略)</p>	<p>(シラバス 15 ページ) 「高度実践開発看護学特講」</p> <p>[授業科目の目的] (略)</p> <p>その上で、広く国内外の看護実践について吟味し、専門分野での新たな看護実践の概念枠組み及びケアの質の向上に貢献する研究テーマと研究方法を検討する。</p> <p>[授業の概要] (略)</p> <p>・クリティカルケア、周手術期ケアなど治療にある患者の療養生活の課題について明らかにする。 (略)</p>
<p>(シラバス 21 ページ) 「特別研究Ⅱ」</p> <p>[授業の概要]</p> <p>① 研究計画書について研究倫理審査の結果を受け、研究の実施を具体的に進める (一行目の「を」を削除)</p>	<p>(シラバス 21 ページ) 「特別研究Ⅱ」</p> <p>[授業の概要]</p> <p>① 研究計画書について研究倫理審査の結果を受け、研究の実施を具体的に進める</p>

(新旧対照表) 設置等の趣旨等を記載した書類 (本文)

新		旧	
(設置等の趣旨 (本文) 21 ページ)		(設置等の趣旨 (本文) 21 ページ)	
【表4 入学から修了までの標準的なスケジュール】		【表4 入学から修了までの標準的なスケジュール】	
年次	月	研究活動	研究活動
1年	4月	主指導教員の決定 履修ガイダンス 履修計画書の提出	主指導教員の決定 履修ガイダンス 履修計画書の提出
	5月	副指導教員の決定	副指導教員の決定
	5~3月	中間報告会Ⅰ	中間報告会Ⅰ
	年度末	研究活動報告書提出	研究活動報告書提出
2年	4~3月	データ収集・分析、中間報告会Ⅱ	データ収集・分析、中間報告会Ⅱ
	年度末	研究活動報告書提出	研究活動報告書提出
3年	4~12月	学位論文に関連する論文の投稿受理 修了要件に必要な単位修得認定 投稿論文の掲載受理の確認 学位論文審査委員会の設置	学位論文に関連する論文の投稿 学位論文審査委員会
	1月	学位論文提出	学位論文提出
		学位論文審査 (公聴会)	学位論文審査 (公聴会)
	2月	最終試験 (口頭試問)	最終試験 (口頭試問)
		学位論文審査結果の審議 学長による合否決定	学位論文審査結果の審議 学長による合否決定
	3月	学位授与 (修了) ・学位論文公表	学位授与 (修了) ・論文公表

(新旧対照表) 設置等の趣旨を記載した書類 (資料) (審査意見 (資料) 資料2)

新		旧	
(設置等の趣旨 (資料) 3ページ)		(設置等の趣旨 (資料) 3ページ)	
資料1 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、授業科目、アドミッション・ポリシー関係図		資料1 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、授業科目、アドミッション・ポリシー関係図	
設置科目・授業科目	DP1 DP2 DP3 DP4	設置科目・授業科目	DP1 DP2 DP3 DP4
基礎科目	看護科学研究論	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎
	理論看護学	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎
	看護倫理学	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎
	看護システム開発学	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎
専門科目	看護ケア実践開発科学特講	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎
	看護教育学特講	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎
	政策・管理看護学特講	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎
	高度実践開発看護学特講	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎
研究科目	特別研究Ⅰ	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎
	特別研究Ⅱ	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎
	特別研究Ⅲ	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎

(新旧対照表) 教員名簿

新											旧												
((基幹教員) 専任教員の年齢構成・学位保有状況 6ページ)											((基幹教員) 専任教員の年齢構成・学位保有状況 6ページ)												
別添様式第3号 (その3の1) (用紙: 日本産業規格A4縦型)											別添様式第3号 (その3の1) (用紙: 日本産業規格A4縦型)												
基幹教員の年齢構成・学位保有状況											基幹教員の年齢構成・学位保有状況												
職位	学位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合	計備考	職位	学位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合	計備考		
教 授	博 士	人	人	人	4人	5人	6人	人	15人		教 授	博 士	人	人	人	4人	5人	6人	人	15人			
	修 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人			修 士	人	人	人	人	1人	人	人	人	1人		
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人			学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	人		
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人			短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人			その他	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	2人	3人	1人	人	人	6人		准 教 授	博 士	人	人	2人	3人	1人	人	人	6人			
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人			修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	人		
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人			学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	人		
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人			短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人			その他	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人		講 師	博 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人			
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人			修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	人		
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人			学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	人		
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人			短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人			その他	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人		助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人			
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人			修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	人		
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人			学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	人		
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人			短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人			その他	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	2人	8人	6人	6人	人	22人		合 計	博 士	人	人	2人	9人	6人	6人	人	23人			
	修 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人			修 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人			
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人			学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	人		
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人			短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人			その他	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	